ISSN 0915－1613

年　報　20

２００３年度
（平成15年度）

2004．8

山梨県埋蔵文化財センター

ISSN 0915－1613

年　報　20

２００３年度
（平成15年度）

2004．8

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、2003年度に当センターが実施しました発掘調査及び試掘調査などの概要と、『遺跡調査発表会』や『山梨の遺跡展』などの普及事業の内容を報告するものであります。

発掘調査では４事業の開発工事に伴い、４箇所の遺跡調査を行いました。まず、山梨市の「足原田遺跡」では、平安時代末期の住居跡６軒が発見され、また、調査区中央部に形成された谷には古墳時代前期の土器捨て場が存在していたことを確認しました。「井坪遺跡」・「炭焼遺跡」の両遺跡は富士河口湖町河口に所在しており、「井坪遺跡」からは縄文時代後期の加曾利Ｂ式土器や平安時代の畑跡と考えられる遺構が、「炭焼遺跡」からは縄文時代から近世に至るまでの土器や陶磁器片が確認されました。「鰍沢河岸跡」は2000年から発掘調査に着手した事業で、今年度は河岸問屋街最北部が調査範囲となっていました。その中から、文政４年（1821）の大火にあたるものと考えられる、一面に焼土が広がっている面を確認することができました。また、焼けた面で確認された地割については、江戸時代の終わりに描かれたとされる「海野家絵図」の地割とほぼ一致することが明らかになりました。「小井川・小河原遺跡」からは、溝や墓といった遺構が確認され、中世から近世に至るまでの土器や陶磁器などの生活遺物が出土しました。調査区域近辺にはかつて寺院が存在していたことが確認されており、当時の生活の様子の一端を窺い知ることができるものと思われます。

なお、甲府城の稲荷櫓の復元工事が2003年度に完了し、２層の白壁の櫓建物が2004年４月から一般公開され、益々県民の注目を浴びている「県史跡甲府城」ですが、2003年度は14年間余りの発掘調査成果の報告書刊行にむけて本格的整理作業をすすめたところです。調査では、甲府城の築城年代を示す豊臣氏の金箔瓦などが出土し、当時の野面積み石垣や築城の技術が解明されました。一方、甲府城下町の調査報告書も刊行しましたので、一連の成果が甲斐の近世史を紐解くとともに、多くの方々に山梨県の歴史全般を身近に感じていただく大きくな契機となれば望外の喜びであります。

また、2002年度からは小中学校で、翌年度からは高等学校において「総合的な学習の時間」が本格的に実施されています。それに伴い、各種講演会等への講師派遣、学校教育現場への出前支援授業や道具貸出、生徒を受け入れての職場体験といった学校からの要望が当センターに対して数多く出されるようになり、2003年度は出前支援事業９回、職場体験受入３回、講演会講師派遣16回の普及事業を実施いたしました。

そのような中で、当センターでは普及事業の受け入れ基準である「山梨県埋蔵文化財センター資料普及事業に関する取扱要綱」を定め、また、収蔵している考古資料の積極的活用を図るための「山梨県埋蔵文化財センター資料活用に関する規程」を定めました。これらの事業は今後ますます要望が増加していくことが予想されますので、受け入れ態勢の整備を図っていく予定であります。

当センターは1982年の発足以来21年が経過しましたが、これまで県内各地で発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めてきました成果を、県民の皆様にさまざまな場でより積極的に活用していただけるようにしてまいりますので、これからも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2004年８月

山梨県埋蔵文化財センター

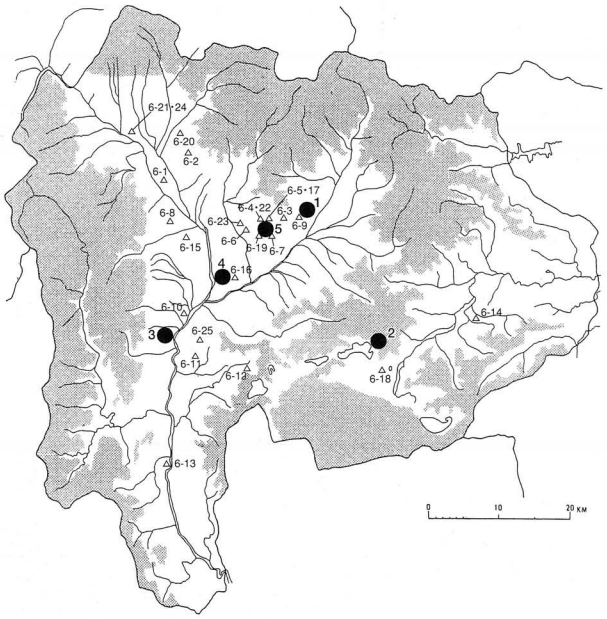
所長　**渡　辺　　誠**

目　次

第１章　2003年度の事業概要
1　発掘調査等 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　資料普及事業 …… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧 …… 4
5　所内研究グループ …… 7
6　第16回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 8
7　遺跡調査発表会 …… 8
8　山梨の遺跡展2003 …… 9
9　所内研修 …… 10
10　寄贈・購入図書 …… 10

第２章　各遺跡の発掘調査等概要
1　足原田遺跡 …… 11
2　井坪遺跡・炭焼遺跡 …… 13
3　鰍沢河岸跡A …… 15
4　小井川・小河原遺跡 …… 17
5　甲府城跡（県指定史跡）関連事業 …… 19
6　県内分布調査 …… 21

第３章　県内の概況
1　発掘調査 …… 33
2　県指定文化財 …… 33
3　発掘調査の成果と保存整備事業 …… 33
4　調査体制 …… 33
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・2003年度発掘調査一覧表 …… 34



2003年度　発掘調査遺跡位置図

凡　例

1．本書は、2003年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2．本書の編集は田口明子、鶴田博が行った。
3．2003年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2004年３月末日現在で集計したものである。
4．第２章各遺跡の発掘調査概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。
5．左記の地図は、2003年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、１頁の発掘調査の表に対応している。

2003（平成15）年度　職員組織

所長	渡辺　誠
次長	山崎義雄
総務課長（兼）	山崎義雄
次長	末木　健
調査研究課長	坂本美夫
資料普及課長	八巻與志夫

総務課	
主査	塚脇亮一
副主査	今泉俊彦
主事	折居　誠
主任文書事務員	矢崎和子
業務員	久保川一三

調査研究課第１担当	
副主幹・文化財主事	長沢宏昌
主任・文化財主事	小林孝子
主任・文化財主事	小林弘典
非常勤嘱託	正木季洋

調査研究課第２担当	
副主幹・文化財主事	保坂康夫
主任・文化財主事	笠原みゆき
文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	一瀬一浩

調査研究課第３担当	
副主幹・文化財主事	小林広和
主任・文化財主事	保坂和博
主任・文化財主事	田口明子

調査研究課第４担当	
主査・文化財主事	高野玄明
主査・文化財主事	猪股一弘
副主査・文化財主事	今福利恵
非常勤嘱託	須長愛子

資料普及課第１担当	
副主査・文化財主事	村石眞澄
主任・文化財主事	宮里　学
非常勤嘱託	西海真紀
非常勤嘱託	楠間美季江

資料普及課第２担当	
副主幹・文化財主事	米田明訓
副主査・文化財主事	三田村美彦
副主査・文化財主事	森原明廣
文化財主事	網倉邦生

第１章　2003年度の事業概要

１．発掘調査等

2003年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第２章で述べることとする。

番　号	遺　跡　名　他	番　号	遺　跡　名　他
1	足原田遺跡	2	井坪遺跡・炭焼遺跡
3	鰍沢河岸Ａ	4	小井川・小河原遺跡
5	甲府城跡（県指定史跡）		

・県内分布調査

番　号	遺　跡　名　他	番　号	遺　跡　名　他
6－01	県道17号（七里岩ライン）拡幅工事に伴う試掘調査（能見城）	6－02	県立射撃場建設に伴う試掘調査
6－03	西関東道路建設に伴う試掘調査（上町田遺跡）	6－04	裁判所長宿舎建て替え工事に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡）
6－05	山梨大学クリーンエネルギー研究センター増設事業に伴う試掘調査（武田城下町遺跡）	6－06	県立女子短期大学校舎改築に伴う試掘調査
6－07	山梨県庁構内駐車場建設に伴う試掘調査（甲府城跡）	6－08	あけぼの医療センター改築工事に伴う試掘調査
6－09	西関東道路関連取り付け道路建設に伴う試掘調査	6－10	国土交通省河川改修工事に伴う試掘調査（青柳河岸跡）
6－11	地滑り対策工事に伴う試掘調査（六郷町一の坪地内）	6－12	地滑り対策工事に伴う試掘調査（赤池氏屋敷）
6－13	大野築堤護岸工事に伴う試掘調査	6－14	一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査（玉川遺跡・天正寺遺跡）
6－15	工業振興地域内における試掘調査（野牛島遺跡･西之久保遺跡）	6－16	新山梨環状道路建設工事に伴う試掘調査（小井川・小河原遺跡）
6－17	山梨大学工学部総合研修棟改修に伴う仮設プレハブ建設立会調査（武田城下町遺跡）	6－18	富士北麓総合学科建設事業に伴う仮設校舎建設立会調査
6－19	県庁構内地下埋設工事に伴う立会調査（甲府城跡）	6－20	大林寺川火山砂防事業に伴う立会調査
6－21	北杜高校農場内建物解体工事に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）	6－22	裁判所長宿舎基礎撤去工事に伴う立会調査（武田城下町遺跡）
6－23	県営塩部第2団地改築事業に伴う立会調査	6－24	北杜高校農場内馬術練習場整備柵列設置に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）
6－25	六郷町落居地区地滑り対策事業に伴う試掘立会調査		

２．整理作業

2003年度の整理作業は、以下のとおりである。

１）基礎的整理作業

番　号	遺　跡　名
1	鰍沢河岸Ａ・Ｂ
2	足原田遺跡
3	小井川・小河原遺跡
4	井坪遺跡・炭焼遺跡

２）本格的整理作業

番　号	遺　跡　名
1	原町農業高校前遺跡（第2次）
2	県指定史跡　甲府城跡

３）報告書作成作業

番　号	遺　跡　名
1	百々遺跡２・４
2	百々遺跡３・５
3	日向町第２遺跡
4	甲府城下町遺跡
5	酒呑場遺跡
6	原町農業高校前遺跡（第3次）
7	中沢遺跡・武家遺跡
8	寺部村附遺跡・中西遺跡
9	埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査

3．資料普及事業

今年度は、学校等からの講師派遣・出前支援授業・職場体験・道具貸出等の要望に対する受け入れ基準を次のように整備した。普及事業とその取り扱い基準を「山梨県埋蔵文化財センター資料普及事業に関する取扱要綱」として定めた。また、収蔵している考古資料の積極的活用を図るため「山梨県埋蔵文化財センター資料活用に関する規程」で、活用できる考古資料の範囲及びその方法等を明確にした。

今年度は、５校からの要望を受け入れ、合計９回の出前支援授業を行い、３校から職場体験の生徒を受け入れた。また、各種研修会・講演会の講師として、職員を合計16回県内各地に派遣した。

土器作りの様子（落合小）

火起こしの発表会（増穂小）

平成15年度　資料普及事業実績一覧表

月	出前支援授業	回数	職場体験	回数	講演会講師派遣	回数
4月						
5月					寿勧学院「甲府城」	1
6月	玉宮小	2			考古博講座、レインボー大学 寿勧学院甲府、寿勧学院山梨	4
7月	身延東小	1			藤川小甲府城見学会	1
8月			北東中、石和中、東高	3	東八代教員甲府城見学会 甲府教員甲府城見学会 総合教育センター講師	3
9月					魅力メッセンジャー甲府城見学会 魅力メッセンジャー鰍沢見学会 五開小学校鰍沢見学会 寿勧学院大学院甲府城見学会	4
10月	落合小×2、白根東小	3				
11月						
12月	落合小	1				
1月	増穂小	1				
2月	落合小	1			北東中講演、高校教育研究会講演 博物館県民参画事業	3
3月						
合計		9		3		16

※対応職員数　8名
※1件に職員2名対応
※1職員平均2件対応

※8月中のみ3校3名受け入れ

※甲府城見学会、鰍沢河岸見学会含む

山梨県埋蔵文化財センター資料普及活用事業に関する取扱要綱

（趣旨）
第１条　この要綱は、山梨県教育庁組織規則第１９条第１項第３号および第４号に基づき、埋蔵文化財センターが所有する資料の普及活用事業を円滑に進めるための指針を定めるものとする。

（資料普及の内容）
第２条　山梨県埋蔵文化財センターが行う普及活用事業等は、次のものとする。
1．出前支援授業
2．職場体験
3．講師派遣
4．道具および資料の貸し出し
5．埋蔵文化財を広く活用するための情報の広報
6．その他　埋蔵文化財の普及活用に必要と認められるもの

（取り扱い基準）
第３条　第２条で定める資料普及活用事業は別に定める「資料普及活用事業取扱要綱」にもとづいて行う。

（その他）
第４条　本要綱に定めの無い事項については、課長会議で協議し、所長が決定する。

附　則
本要綱は、平成15年９月16日から施行する。

山梨県埋蔵文化財センター資料活用に関する規程

（目的）
第１条　本規程は、山梨県埋蔵文化財センター（以下「所」という）が収蔵している考古資料（以下「考古資料」という）の活用のための指針を定める。

（資料）
第２条　考古資料は、次に掲げるものとする。
1　土器や石器及び木製品等の人工遺物並びに動物の骨や植物遺体等の自然遺物（以下「出土遺物」という。）
2　発掘調査時に撮影した写真及びネガ並びにポジフィルム等（以下「写真資料」という）
3　発掘調査時に作成した遺構等の測量図面（以下「測量図面」という）
4　整理作業時に作成した遺物等の実測図面（以下「遺物図面」という）
5　発掘調査報告書及び考古学研究図書（以下「考古関係図書」という）
6　その他　分析データ等の資料

（資料の利用制限）
第３条　考古資料は、個人又は団体が考古学及び歴史学の研究のために学術的な手法によって調査する場合に限り、利用することができる。

（利用の方法）
第４条　考古資料の利用は、所内の施設において係員の管理下で、次に掲げる方法で行うこととする。
1　出土遺物の観察及び実測図の作成作業
2　写真資料の観察作業
3　測量図面の観察複写作業
4　遺物図面の観察複写作業
5　考古関係図書の閲覧
6　分析関係データの閲覧

（利用の申請）
第５条　考古資料の利用を希望する者は、必要事項を記載した書面(第１号様式）をもって、予め埋蔵文化財センター所長（以下「所長」という）に利用申請し、その承認を得なければならない。

（利用の承認）
第６条　所長は、前条の規程に基づく書面が提出された時には、資料の保存上必要な条件を付して書面(第２号様式）をもって承認できるものとする。
2　所長は、申請内容を検討して、考古資料の保存上利用を承認することが望ましくないと判断した場合には、前項の規程に拘わらず、不許可とすることができる。不許可と判断した場合には、速やかに申請者に書面(第３号様式）をもって通知しなければならない。

（利用承認の取り消し又は中止）
第７条　所長は、前条の規程に基づき承認した場合であっても、次に掲げる事項に該当する事が明らかであると判断した場合には、速やかに承認を取り消し、又は利用の中止を指示することができる。
（1）文化財の保護上好ましくない行為を行おうとした場合又は行った場合
（2）山梨県が定めた文化財保護に関する諸規程に違反した場合
（3）係員の指示に従わなかった場合
（4）利用方法等が、申請内容と異なることが明らかとなった場合
（5）他の利用者の迷惑となる行為をした場合
（6）センターの業務に支障が生じた場合又は生じることが予想され　る場合
2　前項の規定に基づいて取り消しや中止の指示を受けた者は、速やかにその指示に従わなければならない。

（損害賠償）
第８条　所長は、利用中の考古資料を破損または毀損した者には、その修復に要する経費を請求する事ができる。請求を受けた者は、速やかに賠償しなければならない。

（考古資料の返還）
第９条　第６条に基づき承認を受けて考古資料を利用している者が利用を終了した場合又は所内から退出する場合には、速やかに係員に当該考古資料を返還しなければならない。

（資料の複写等）
第10条　立体的な考古資料は、複写機等による直接的複写は原則として認めない。
2　申請者が行う考古資料の写真撮影は、第５条の定めに従って手続きを行うこととする。

（その他）
第11条　その他、この規程に定めの無い事項については、所長と博物館長とが協議して決定する。

附　則
本規程は、平成15年11月21日から施行する。

４．収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申請許可物件名		申請者	利用目的
1	4.1～H16.3.31	金生遺跡出土 寺所遺跡出土 城下遺跡出土 東原遺跡出土	出土品278点	大泉村教育委員会	大泉村歴史民俗資料館常設展に展示のため
2	4.1～H16.3.31	郷蔵地遺跡出土 〃 〃 〃	深鉢形土器２点 三角とう土製品１点 石棒２点 丸石１点	明野村教育委員会	明野村埋蔵文化財センターに展示のため
3	4.1～H16.3.31	柳坪遺跡出土 一の沢遺跡出土 〃 〃	深鉢形縄文土器４点 石皿１点 磨石１点 凹石１点	山梨市立八幡小学校	社会科並びに総合学習授業の教材に使用ため
4	4.1～H16.3.31	大師東丹保遺跡出土 〃 〃 〃	弥生中期のクルミ16点 弥生中期のカヤの実３点 弥生時代中期のトチの実１瓶 鎌倉時代の桃（種子）７点	（財）山梨県公園公社	笛吹川フルーツ公園内地下施設果物館で展示するため
5	4.1～H16.3.31	桜井畑遺跡出土	土師器16点	県立青少年センター	青少年センター別館に展示のため
6	4.1～H16.3.31	原町農業高校前遺跡出土	深鉢形土器15点	県立北杜高等学校	教材として、活用展示するため
7	4.1～H16.3.31	重郎原遺跡出土	縄文土器38点	塩山市教育委員会	市民教育に供するため
8	5.17～7.2	古婦毛遺跡出土 〃	陶器４点 土師器９点	釈迦堂遺跡博物館	企画展「勝沼一宮の遺跡」に展示するため
9	7.2～8.29	天神遺跡出土 花鳥山遺跡出土	黒曜石剥片20点 黒曜石破片16点	安中市教育委員会	第３回企画展「ストーンロード」開催に伴う黒曜石産地同定のため
10	8.7～8.12	塩部遺跡出土	焼夷弾３点 弾頭１点	2003平和を願う山梨戦争展実行委員会	2003平和を願う山梨戦争遺跡展に展示するため
11	9.9～10.28	酒呑場遺跡出土 〃 〃 金生遺跡出土 天神遺跡出土 〃	翡翠製大珠1点 翡翠製大珠未製品1点 翡翠製敲石１点 蛇紋岩製磨製石斧３点 翡翠製大珠１点 縄文土器１点	「奴奈川姫の里」変身劇場実行委員会	「華開く翡翠文化ー玉･石斧の生産と交易」に展示するため
12	10.8～H16.1.26	天神遺跡出土 〃 花鳥山遺跡出土 〃	石器類32点 土器７点 石器３点 土器３点	安中市教育委員会	第３回企画展「ストーンロード」に展示のため
13	10.22～11.25	安道寺遺跡出土 中丸遺跡出土 鋳物師屋遺跡出土 一の沢遺跡出土	水煙大型深鉢形土器１点 土偶レプリカ１点 土偶レプリカ１点 土偶レプリカ１点	辰野美術館	企画展「縄文の森ー岡本太郎と歩くー」
14	10.10～10.25		石鏃レプリカ３点	南アルプス市立白根東小学校	総合的な学習の授業で使用するため
15	7.9～12.25	平林２号墳出土 〃 〃 かんかん塚古墳出土 竜王２号墳出土	金銅花形鏡板　一対２点 金銅装辻金具　１点 金銅装飾金具２点 三環鈴１点 金銅装杏葉１点	百済武寧王展実行委員会	平成１６年度特別企画展『百済武寧王と倭の王たちー黄金色に輝く王たちの装いー』に展示するため

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4月9日	株式会社　小学館	「考古資料大観　第７巻　弥生・古墳時代　鉄・金属製品」に掲載のため	かんかん塚古墳 御崎古墳	木心鉄板張輪鐙 毛彫り花弁形杏葉
2	5月1日	釈迦堂遺跡博物館	企画展「勝沼一宮の遺跡」にて展示するため	古婦毛遺跡	遺物写真
3	5月27日	株式会社　碧水社	学習研究社「復元模型で見る日本の城」に掲載のため	甲府城跡	復元写真
4	6月20日	郡山市立美術館	「原始美術の華　縄文土器の造形展」図録並びに広報物へ掲載のため	殿林遺跡 一の沢遺跡 重郎原遺跡 安道寺遺跡 安道寺遺跡	深鉢形土器 円形把手付深鉢形土器 人体装飾付深鉢形土器 蛇身装飾付深鉢形土器 把手状装飾付深鉢形土器
5	7月24日	安中市教育委員会	企画展「ストーンロード」図録並びにパネルなどに使用するため	天神遺跡 花鳥山遺跡	石器・土器 石匙・土器
6	8月5日	株式会社　小学館	「考古資料大観　第３巻　弥生・古墳時代　土器Ⅲ」に掲載のため	東山南（A）遺跡 東山南（B）遺跡 岩清水遺跡	土器集合写真 出土土器 土器集合写真
7	8月5日	長野県立歴史館	長野県立歴史館常設展示小テーマ「古代の文字と印の世界」のパネルに掲載のため	考古博物館常設展	律令国家の役人の机上
8	8月11日	有限会社　オフィスインフォム	観光ガイドブック「遊マップ山梨」記事に掲載のため	考古博物館	外観
9	8月22日	「奴奈川姫の里」変身劇場実行委員会・糸魚川市長者ヶ原考古館	「ヒスイ文化フォーラム“2003”「華開く翡翠文化－玉・石斧の生産と交流－」に展示するため	酒呑場遺跡 金生遺跡 天神遺跡	翡翠製大珠 翡翠製大珠未製品 翡翠製敲石 蛇紋岩製磨製石斧 翡翠製大珠 縄文土器
10	8月28日	甲府商工会議所	甲府商工会議所だより平成15年9月号に掲載のため	甲府城跡	復元模型
11	9月1日	安中市教育委員会	企画展「ストーンロード」図録並びにパネルなどに使用するため	山梨から見た八ヶ岳 天神遺跡	 全景
12	9月2日	甲府商工会議所	甲府商工会議所だより平成15年9月号に掲載のため	甲府城跡出土	金箔瓦
13	9月17日	谷戸組長	「谷戸組誌」（旧谷戸村）に掲載のため	金生遺跡 城下遺跡	航空写真 住居跡 １号配石全景 １号配石部分 ２号配石部分 石棺墓 出土遺物 イノシシ骨 １号埋甕
14	9月19日	辰野美術館	企画展「縄文の森－岡本太郎と歩く」の図録並びに広報物へ掲載のため	安道寺遺跡 中丸遺跡 鋳物師屋遺跡 一の沢遺跡	深鉢形土器 土偶（レプリカ） 土偶 土偶
15	10月3日	株式会社　岩崎書店	『「日本人」を知る本－人・心・衣・食・住－』第５巻に掲載のため	釈迦堂遺跡	土偶集合写真
16	10月7日	株式会社　碧水社	学習研究社「復元模型で見る日本の城」に掲載のため	甲府城跡	復元
17	10月8日	県史編さん室	「山梨県史」資料編７　中世４（考古資料）に掲載のため	鰍沢河岸跡	発掘現場写真
18	10月22日	國學院大學考古学研究室	英語版「縄文人の世界」に掲載のため	重郎原遺跡 金生遺跡 甲ッ原遺跡 酒呑場遺跡 釈迦堂遺跡	深鉢形土器 焼けたイノシシの骨 土鈴 土鈴レントゲン写真 土偶集合写真
19	10月29日	株式会社　小学館	「考古資料大観　第４巻　弥生・古墳時代　埴輪」に掲載のため	銚子塚古墳	壺形埴輪 木製品
20	10月31日	株式会社　武陽堂	「2005年全日本カレンダー」に掲載のため	甲府城跡	遠景
21	11月12日	県史編さん室	「山梨県史」通史編１に掲載のため	二本柳遺跡 東山北遺跡 米倉山Ｂ遺跡 金の尾遺跡 酒呑場遺跡 一の沢遺跡 海道前Ｃ遺跡 郷蔵地遺跡 東山南（Ｂ）遺跡 久保田・道々芽木遺跡	水田遠景 10～13号住居跡完掘状況 ８号住居跡 貨泉 16号住居跡 方形周溝墓群 Ｃ区14号住居跡完掘状況 ４号住居跡出土土器 出土土器 打製石斧・石匙 顔面把手付土器・石棒 石棒 須恵器把手付碗 須恵器甕・樽形はそう 久保田地区１号竪穴建物竈周辺

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
				百々遺跡 岩清水遺跡 宮の前遺跡 大丸山古墳 横針前久保遺跡 天神堂遺跡 北堀遺跡 大月遺跡 甲ッ原遺跡 大月遺跡 長崎県深堀遺跡 兄川	18号土坑出土ウマ 墨書土器「甲斐」 須恵器はそう・高坏 屋外埋甕 遠景 局部磨製石斧 礫群 住居内埋甕 石錘セット 石皿と磨石 曽利式と加曽利式の対比 有孔鍔付土器 ナウマンゾウ臼歯
22	11月20日	株式会社　春秋社	「埋もれた楽器－音楽考古学の現場から」に掲載のため	釈迦堂遺跡	土鈴 有孔鍔付土器
23	12月25日	株式会社　小学館	「考古資料大観　第４巻　弥生・古墳時代　埴輪」に掲載のため	銚子塚古墳	壺形埴輪（底面）
24	1月9日	北日本放送株式会社	県民カレッジテレビ放送講座「遙かなる記憶～考古学が語る富山～」副読本に掲載のため	天神遺跡	翡翠製大珠
25	1月9日	株式会社　筑摩書房	「日本美術応援団」ちくま文庫版収録に際して掲載のため	殿林遺跡 宮の前遺跡	深鉢形土器 埋甕出土状況
26	1月16日	県史編さん室	「山梨県史」通史編１に掲載のため	上の平遺跡 東山古墳群 三珠町大塚古墳 酒呑場遺跡 二の宮遺跡 兄川 富士見一丁目遺跡	方形周溝墓出土土器 空中写真 鈴釧 六鈴鏡 Ｃ区14号住居跡完掘状況 西71号住居跡完掘状況 ナウマンゾウ右上第２大臼歯 小区画水田検出状況
27	1月28日	百済武寧王陵展実行委員会	「百済武寧王と倭の五王たち」展の図録並びに広報関係印刷物、インターネット上への掲載のため	平林２号墳 かんかん塚古墳 竜王２号墳	金銅装花形鏡板 金銅装辻金具 金銅装飾金具 三環鈴 金銅装杏葉
28	1月29日	県史編さん室	「山梨県史」通史編１に掲載のため	酒呑場遺跡 一宮町中尾条里遺跡 小平沢古墳 百々遺跡 柳坪遺跡	深鉢形土器２点 水田跡 斜縁二神二獣鏡 18号土坑ウマ Ｂ区10号住居跡
29	2月1日	県史編さん室	「山梨県史」資料編７に掲載のため	大師東丹保遺跡	網代出土状況
30	2月5日	中道町	テレビ山梨発行「フレッシュマップ」に掲載のため	上野原遺跡 風土記の丘こどもまつり風景	深鉢形土器
31	2月6日	朝日新聞社	新聞紙上に掲載のため	大月遺跡	空中写真２点
32	2月12日	竜王町	「竜王町史」に掲載のため	竜王２・３号墳	飾金具 装身具類 石室正面
33	2月14日	滋澤雅人	東京コダックサロンに展示並びにホームページ上に掲載するため	上野原遺跡 甲ッ原遺跡 安道寺遺跡 海道前Ｃ遺跡 一の沢遺跡	水煙文土器 獣面把手付土器 水煙文土器 人面把手付土器 土器２点
34	2月17日	県史編さん室	「山梨県史」通史編１に掲載のため	銚子塚古墳出土	木製品
35	2月20日	齋藤克彦	「蛇・桑・花菖蒲　図像文様の研究」に掲載のため	殿林遺跡 金生遺跡	深鉢形土器 中空土偶
36	2月20日	春日居町	「平林２号墳歴史公園」説明板に使用のため	平林２号墳	全景 馬具類 装身具類
37	3月3日	有限会社コーベット・フォトエージェンシー	「新編ビジュアル日本史」に掲載のため	天神遺跡	波状口縁土器
38	3月11日	吉川弘文館	『江戸時代の墓と葬制』内「山梨県北部における江戸時代墓地について」に掲載のため	塩川遺跡	近世墓壙群検出状況 第87号墓壙検出状況 第95号墓壙検出状況 第102号墓壙検出状況 第43号墓壙出土人骨
39	3月20日	山梨日日新聞社	山梨日日新聞に掲載のため	丘の公園第２遺跡	ナイフ形石器２点
40	3月25日	山梨県生涯学習推進センター	生涯学習推進センター刊行「山梨学講座（２）」に掲載のため	百々遺跡	18号土坑　馬四体出土状況
41	3月29日	県史編さん室	「山梨県史」通史編１に掲載のため	花鳥山遺跡 大月遺跡 海道前Ｃ遺跡 安道寺遺跡 塩部遺跡 酒呑場遺跡 上の平遺跡	コイ科のエラ骨 ２号住居 マメ類の内面と現生アズキの内面 石匙 打製石斧 有孔鍔付土器 ヒトガタ２体 馬の歯 全景 方形周溝墓群

5．所内研究グループ

縄文研究部会

当部会では、山梨県内出土の縄文土器の資料を集成し、各時期の大別型式で標識となるような資料を抽出し、図版を作成する作業を行ってきた。今年度は、縄文時代前期諸磯ｂ式期の資料を中心に抽出作業を行った。本県において当該期の資料は非常に多く、資料の集成作業で今年度の活動は終了となった。

古墳研究部会

当部会では、山梨県内に所在する古墳についてその所在と現状を把握し、順次それらをカード化する作業を行なっている。本年度は昨年度から継続し調査を行なっている境川村の北部地域に所在する御崎塚古墳、浅間塚古墳などについての踏査を行なったが、遺物の収集には至らなかった。なお、踏査については天候などに左右されることもあり、計画通りの成果を挙げることができないのが現状である。

実験考古学研究部会

山梨県では、奈良・平安時代においては地元の土を使って焼成されたと考えられるような須恵器もみられ、窯跡についても古墳時代後期の境川村牛居沢窯跡や敷島町天狗沢瓦陶兼用窯跡が知られているが、周辺県ほどの生産の隆盛は見られない。当部会では「山梨県内の採取粘土により須恵器製作を行なう」ことを目的とし、実験を重ねている。今年度の活動では６種類の粘土によるテストピース作りの他、実験用窯（灯油窯）の焼成状態を把握するため焼成実験を２回行なった。実験については作成したテストピースを使って、須恵器焼成に必要な1200℃まで焼成温度を上げるため、１時間に200℃上げる６時間焼成と、１時間に100℃上げる12時間焼成をそれぞれ１回ずつ行なった。今年度の活動は須恵器焼成のための準備段階にとどまったが、今後本格的な焼成実験を行ない、（１）山梨で須恵器生産が低調であった理由の追及、（２）遺跡出土遺物と実験試料との比較による生産と供給関係の解明、（３）須恵器の製作技術の復元などの実験目的を追求していきたいと考えている。

文化財保護行政研究部会

文化庁協力者会議から、「発掘・整理作業の標準化」の全国的な動向を把握し、当センターの現況を踏まえて県内の標準化の方向性を探った。

具体的な課題として、報告書の構成・内容の検討を行った。センター本棟（中道町）の収蔵庫がほぼ満杯であり、本棟収蔵庫へは報告書に掲載した遺物を報告書の図版ごとに収納し、残りは岩窪収蔵庫（甲府市）へ収納している。つまり一連の発掘調査で出土した遺物が報告書掲載遺物と報告外のものと、別々に収蔵されるのが現状である。文化庁協力者会議の「(案) 発掘調査報告書の標準化について」の遺物の個別説明では、分類基準を示して、全体の傾向を記述するとある。これらを踏まえると、どのような整理評価の作業を経て、報告遺物が抽出されているのかという資料操作の過程の概要も報告する。また遺物注記の表記は、とくに報告外については具体的に凡例を示し、後世の活用にも耐える資料とする必要がある。このためには整理作業の着手の段階から、発掘調査資料の収蔵・活用することを十分に計画に入れ、整理作業の効率化を高め、地域のために役立つ成果を提供する必要があると考えた。

「発掘・整理作業の標準化」は重要かつ緊急の課題であり、来年度には当センターで全体として取り組んでいく計画である。

写真技術研究部会

平成15年度に新規に発足した研究グループであり、６名の職員で構成される。本年度については、室内における遺物写真撮影技術の研鑽を目指し、いくつかの課題を設定し技術研修を行なった。第一点目の課題は、「ライティング」であり、同一の被写体（縄文中期深鉢形土器・近世染付碗）を複数パターンの光源方向で撮影し、

その長短を実体験する実習を行なった。また、第二点目の課題は、近年使用頻度が高まりつつある「デジタルカメラによる遺物撮影」であり、特にストロボを併用した撮影技術の習得を目指し、実習を行なった。

6．第16回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

本研修会は山梨県内の市町村埋蔵文化財担当者を対象に、最新の考古学研究の方法や技術についての研修を行なっているものであり、本年度で第16回目を数える。平成15年度については、より現実的なテーマとなるように企画し、「文化財保護行政」のあり方をメインテーマとして設定した。講師には、滋賀県能登川町埋蔵文化財センターの植田文雄氏をお招きし、平成16年１月19日（月）に風土記の丘研修センターを会場に実施した。演題は「続・元気の出る埋蔵文化財保護行政と考古学」としていただき、氏がこれまで関わってこられた滋賀県能登川町における埋蔵文化財の保護と活用の事例紹介を交えながら、まさに「元気の出る」お話を伺うことができた。参加いただいた市町村埋蔵文化財担当者からも意見や質問が相次ぎ、発掘調査や研究の成果をいかに市民に還元していくのかについて深く考える機会とすることができた。

7．遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県内で当該年度に発掘調査された遺跡についてその調査内容や成果を公表する催しとして上半期、下半期と年２回開催している。開催は民間考古学研究団体である「山梨県考古学協会」と共催で実施しており、スライド上映を交えた説明および出土遺物や写真パネルのミニ展示も併設している。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の理解を高める方策もとっている。本年度の発表内容等は下記のとおりである。

■ 2003年度上半期遺跡調査発表会

開催日時　2003年10月11日（土曜日）午後1時から4時10分まで

開催会場　風土記の丘研修センター　講堂

発表１　明野村　諏訪原遺跡（発表者　明野村埋蔵文化財センター　佐野 隆）
竪穴住居跡、焼成粘土塊、土偶装飾付土器についての報告。

発表２　南アルプス市　長田口遺跡・中畑遺跡（発表者　南アルプス市教育委員会　保阪太一）
台地上に広がる縄文時代から古墳時代の遺跡についての報告。

発表３　八代町　竜塚古墳（発表者　八代町教育委員会　伊藤修二）
墳丘規模、形状と築造年代についての報告。

発表４　玉穂町　上窪遺跡（発表者　玉穂町教育委員会　今村直樹）
低地における平安時代の水田・溝等についての報告。

発表５　敷島町　松ノ尾遺跡（発表者　敷島町文化財調査会・日本窯業史研究所　三輪孝幸）
区画溝と埋葬にかかわる遺構群、弥生時代の大型住居跡についての報告。

■ 2003年度下半期遺跡調査発表会

開催日時　2004年3月13日（土曜日）午後1時から4時10分まで

開催会場　帝京大学山梨文化財研究所　大ホール

報告　平成15年度の県内埋蔵文化財の調査と保護（発表者　山梨県教育委員会学術文化財課　山本茂樹）
平成15年度の県内における調査動向および埋蔵文化財保護状況についての報告。

発表１　山梨市　足原田遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　小林弘典）
古墳時代から平安時代における住居跡と土器捨て場についての報告。

発表２　上野原町　大間々遺跡（発表者　上野原町教育委員会　小西直樹）
平安時代における竪穴住居跡、掘立柱建物跡と出土遺物からみた支配地域についての報告。

発表３　　大泉村　　谷戸城跡（発表者　大泉村教育委員会　渡邉泰彦）
谷戸城の縄張りと土塁、空堀など遺構検出状況についての報告。
発表４　　丹波山村　　丹波山金山遺跡（発表者　丹波山金山遺跡学術調査団　十菱駿武）
舟越金山遺跡・源太川遺跡・不動滝遺跡についての報告。

８．山梨の遺跡展2003

2003年度に行われた発掘調査の成果の一部や資料普及活動の様子を、いち早く県民に紹介することを目的とし、例年通り「山梨の遺跡展2003」を開催した。内容は、2003年度に埋蔵文化財センターによって行われた発掘調査と資料普及活動の概要および市町村教育委員会によって行われた発掘調査の概要を遺物や写真パネル等を使用し、実施した。

開催は、2004年3月13日（土）から4月4日（日）まで、県立考古博物館の特別展示室を会場とし、入場は無料とした。展示の内容は（１）埋蔵文化財センターによって発掘された遺跡の展示、（２）市町村によって発掘された遺跡の展示、（３）パネル展示の３種類の展示を行った。（１）では、足原田遺跡（山梨市：土器類）、井坪遺跡・炭焼遺跡（富士河口湖町：土器類）、小井川・小河原遺跡（田富町：土器類）、鰍沢河岸跡Ａ（鰍沢町：陶磁器類）の出土資料とパネル展示を行い、さらに甲府城跡（甲府市）のパネル展示を行った。また県内遺跡分布調査として青柳河岸跡（増穂町：礎石等）の出土遺物・パネル展示、埋蔵銭貨分布調査と甲府城柳門跡のパネル展示を行った。（２）では、南アルプス市教育委員会の発掘による長田口遺跡・中畑遺跡（土器類・石皿等）、明野村教育委員会の発掘による諏訪原遺跡・梅之木遺跡・永井原Ｖ遺跡（土器類・石棒等）、八代町教育委員会の発掘による竜塚古墳（土器類）、玉穂町教育委員会の発掘による上窪遺跡（土器類・木簡等）、大泉村教育委員会の発掘による谷戸城跡（土器類）、敷島町教育委員会の発掘による末法遺跡（土器類・ガラス小玉等）、上野原町教育委員会の発掘による大間々遺跡（土器類）、丹波山村教育委員会の発掘による丹波山金山遺跡（石臼等）の出土遺物を各機関から借りて展示した。（３）では、埋蔵文化財センター資料普及課による出前授業などの様子をパネルを用い紹介した。

これらの展示を通じて、県民の方々に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

「山梨の遺跡展2003」（2004年３月13日～４月４日）

9．所内研修

本年度の所内研修については、統一テーマを設定せず、隔月の所内会議日に開催した。研修テーマは、各時期において所員が共通認識を持っておくべき課題や調査事例などの中から適宜選択して毎回のテーマを設定した。研修では、それらの課題等について状況を把握し、所員が相互に意見交換を行なうことができる場となるように努めた。具体的にはセンターにおける各種課題を検討する委員会（雇用問題検討委員会・センター整備拡充検討委員会・センター将来構想検討委員会など）からの検討状況報告や質疑応答・意見交換、県指定史跡甲府城跡の発掘調査や整備事業の概況報告、文化庁協力者会議の検討状況報告などを扱った。

10．寄贈・購入図書

当センターが発足されて21年を超え、この間毎年約4,000冊が寄贈・購入されている。その内容は、全国各県・各市町村教育委員会などから送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館などの企画展・常設展示の図録、業務に関係する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌の購入などからなる。平成15年度は4,141冊の登録があり、大塚文庫（約11,000冊）を加えると約70,000冊が現在収蔵されていることとなる。

一方、年々増えている図書に収蔵スペースが不足し、書架の設置箇所も限界に近いため、収蔵方法の検討や新たな保管場所及び閲覧スペース等の整備が望まれている。

年度別登録図書数

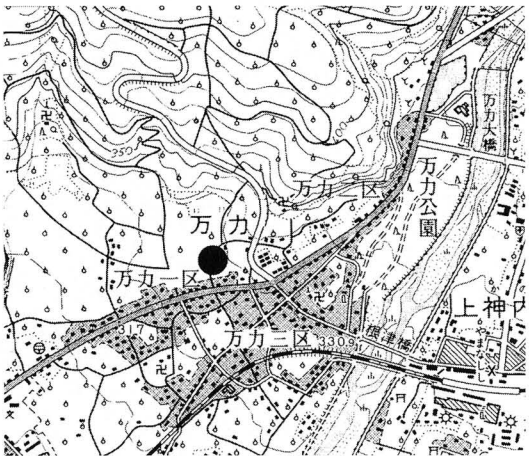
年　　度	新規登録図書	総 登 録 数
平成９年度以前		37257
平成10	3842	41099
平成11	4252	45351
平成12	3515	48866
平成13	3314	52180
平成14	3395	55575
平成15	4141	59716

（大塚文庫を除く）

第２章　各遺跡の発掘調査等概要

１．足原田遺跡（いしはらだいせき）

所 在 地　山梨市万力950番地外
事 業 名　西関東道路建設事業
調査期間　2003年５月22日～11月30日
整理作業　2003年12月１日～2004年３月31日
対象面積　1,400㎡
担 当 者　長沢 宏昌・小林 孝子・小林 弘典



足原田遺跡　位置図

足原田遺跡は笛吹川によって形成された扇状地の西縁に位置し、標高324m前後を測る。当該地は甲府盆地北東縁に当り、標高1,171mの棚山山塊の尾根のひとつである、通称万力ヤマジの南麓に位置する。遺跡立地面は平坦で、南西方向に緩やかに傾斜している。

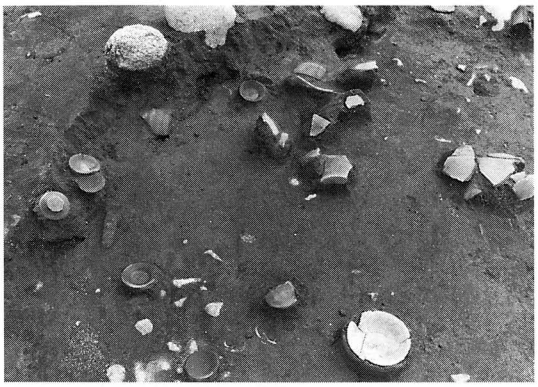
本遺跡の所在する地域に西関東道路が建設されることとなり、予定地内の遺跡の有無が確認された。本遺跡は西関東道路と国道140号とを結ぶアクセス道路部分の試掘調査によって新たに発見された遺跡である。試掘調査は平成14年10月３日～４日に行われ、一部で古墳時代前期・平安時代後期の土師器が出土し、遺構らしき掘り込みも確認されたため、該期の集落の存在が予想された。

調査対象域はほとんどすべてが農地である。試掘調査の結果によって絞り込まれた長さ210m、最大幅14mが本調査の対象となったが、この範囲内には農道や水路等が縦横に走っていた。さらに畑の出入り口確保などの問題もあり、これらを調整しながら調査を実施した。調査の結果、住居跡６軒と谷の斜面に形成された土器捨て場が確認された。住居跡６軒はすべて平安時代末に位置付けられる。一方、谷に捨てられた土器はすべて古墳時代前期後半に位置付けられるものである。

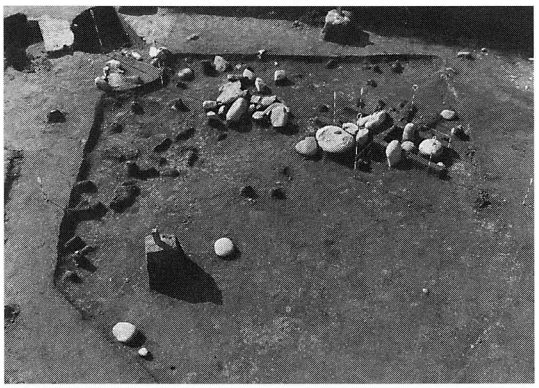
平安時代末の住居跡は山梨市内でも確認例があり、本遺跡周辺では山梨厚生病院脇で数軒調査されるなど、比較的多く調査されている。カマドがコーナーに構築されており、柱状高台付坏が出土していることから、11世紀代に位置づけられる。なお、１軒は火災住居であり、炭化した上屋構築材と思われる部材の一部が確認された。

今回の調査で最も注目されるのは、調査区中央部に確認された谷に形成された土器捨て場である。出土した夥しい量の土器中に完形品は一点もなく、すべてが破片であった。土器中には10～70㎝大の礫が混ざり、礫の上下にも土器は確認されていることから、土器捨て場形成中に礫の投棄も行われたと考えられる。また、数点の球根類炭化物もまとまって出土した。今回図面作成して取り上げた土器片は一万点ちかくにも及ぶ。このすべてが古墳時代前期に収まる訳であり、極めて短期間に形成された土器捨て場であることが判る。当然のことながらこの周辺にはこれだけの土器を廃棄した集落が存在する訳であるが、今回の調査ではこの時期の住居跡は全く確認されなかった。また、今回の調査区域近辺でも確認された例を知らない。西関東道路関係の一連の調査で、落合地区の中沢遺跡および上岩下地区の武家遺跡において、この時期の住居跡や方形周溝墓が山梨市内では初めて確認されたが、本遺跡と中沢遺跡とは直線距離で約1.3㎞、武家遺跡とは1.8㎞離れている。今回調査した地点のきわめて近くにこれらの土器を廃棄した大規模な集落が存在するはずであり、今後注意が必要である。また、今回の調査では東西方向に延びる谷の南側斜面に形成された土器捨て場の一部を調査したが、谷頭部分や谷の反対側（北側）斜面の状況については全く不明なままであり、土器捨て場全体の規模を把握する意味でも、今後の周辺開発事業に対して注視する必要がある。

基礎整理は12月から開始し、３月末まで行った。プラスティック箱で65箱が出土しており、15年度は洗浄・注記と一部の復元作業を行った。



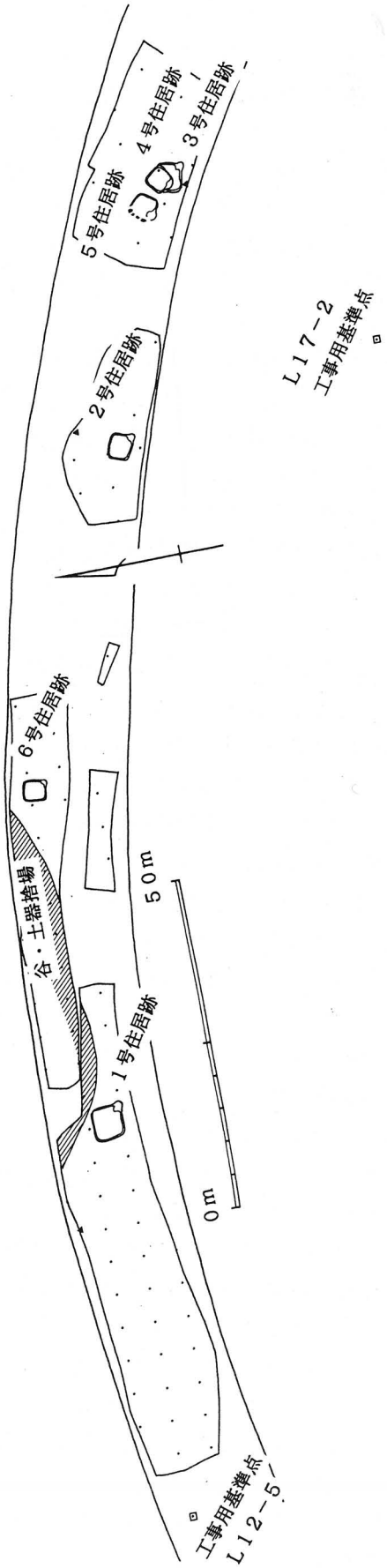
1号住居跡遺物出土状況



3・4号住居跡全景

谷遺物出土状況

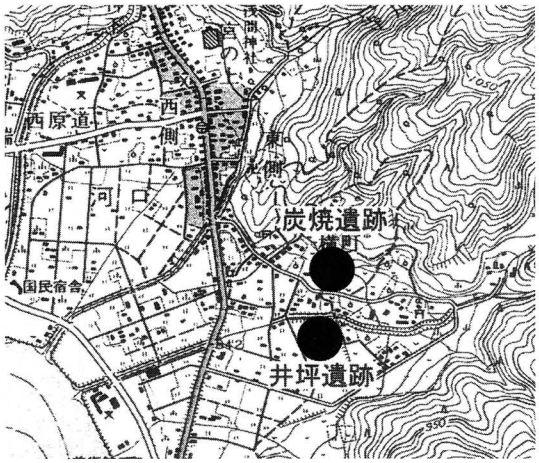
谷遺物出土状況



足原田遺跡・調査全体図

2．井坪遺跡（いつぼいせき）・炭焼遺跡（すみやきいせき）

所 在 地　南都留郡富士河口湖町（旧河口湖町）
河口字井坪520－１外・字炭焼317－１外
事 業 名　国道137号河口２期バイパス建設事業
調査期間　2003年６月９日～11月28日
調査面積　2,600㎡
担 当 者　高野 玄明・正木 季洋



位置図

井坪遺跡・炭焼遺跡の両遺跡は富士河口湖町（旧河口湖町）河口に所在し、富士山北麓、御坂山地の御坂山・三ツ峠山の南麓、河口湖北東岸の標高842～845mの地点に所在する。

両遺跡は2002年11月に河口２期バイパス建設に先立ち、路線内の試掘調査を行い、平安時代の集落跡や畑跡等の遺構及び、それに伴う遺物出土の結果、合計４箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認され、今回の本調査に至っている。この、河口湖周辺は縄文時代から中近世に至る遺跡が数多く存在していることが知られている。また、調査が行われた河口地内は、古代の官道が通過する所であったと言われており、平安時代の古文書である『延喜式』「巻28兵部省諸国駅伝馬条」所載の甲斐国３駅の１つである「河口」の駅の推定地がこの付近とする説がある。

本調査が行われた両遺跡の概要については、下記のとおりである。

○井坪遺跡

本遺跡は、調査区を水路や道路で分断されている都合上、北から１区～３区に分けて調査を行った。地表下1.0～2.0mに見られる黒色火山灰層直下に本遺跡の遺構確認面が見られ、この黒色火山灰を除去すると、畦及び畝状の遺構が調査区全体に広がっている状況が窺えた。畦は、規則的に区画を呈している様子は全く見られない。畝状遺構は地表面全体が凸凹状になり、表面には炭化材が集中している部分が数カ所検出されている。畦及び畝については、現在、サンプリングしてきた土壌の自然科学分析を行っている状況であり、これにより遺構の性格や用途等が明らかになるものと思われる。また、畦及び畝状遺構を掘り下げた２区の中央部西側壁付近からは土器集中箇所が見られ、縄文時代後期中葉の加曽利B式の土器片約300点が３m四方に分布している状況が見られた。この他、検出された遺構は、溝状遺構や土坑などが検出されている。

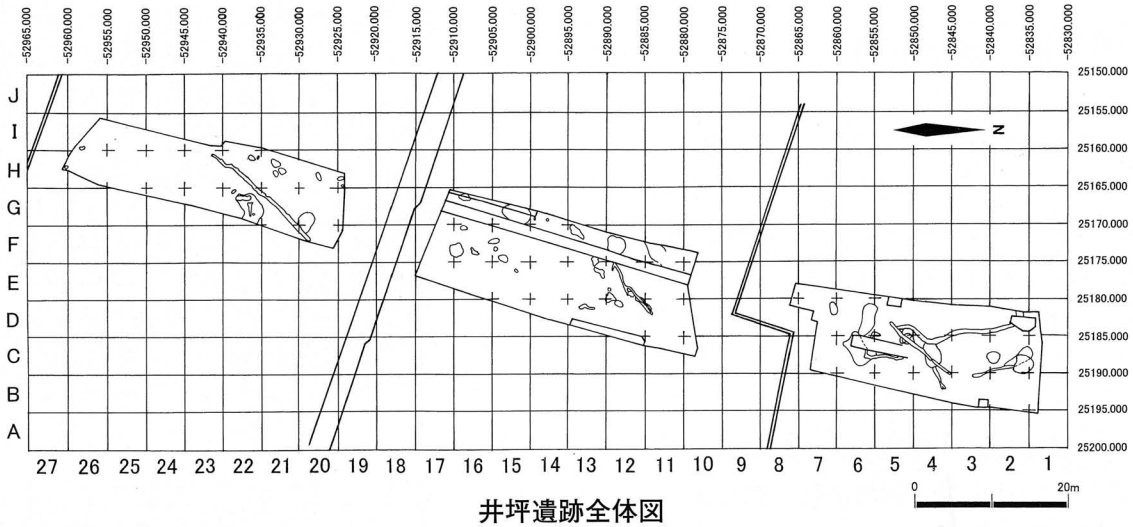
○炭焼遺跡

地表下0.6～1.0mの黒褐色粘質土中に遺物包含層が確認されている。遺物は小破片ではあるが、縄文時代中期、弥生時代後期、平安時代の土器及び中近世の土器や陶磁器片が確認されている。また、黒褐色粘質土の下層部を掘り込む土坑が15基確認されている。数基の土坑の覆土中から平安時代の土師器片の出土が認められていることから、該期の遺構と考えられる。また、焼土遺構も同じ黒褐色粘質土を掘り込んでいることから同時期の所産と思われるが、出土遺物が皆無のため詳細な遺構の性格等は不明である。

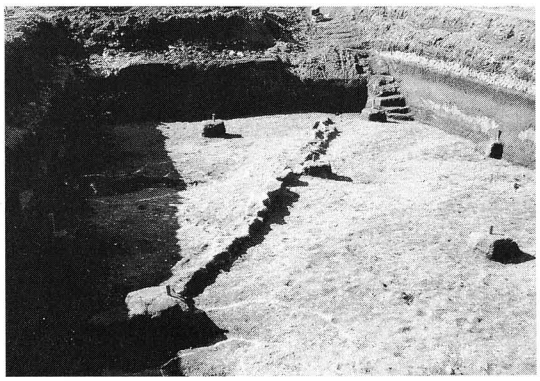
本遺跡には、住居跡など定住した痕跡は見られないものの、各時代に渡る遺物が検出されており、これは、本遺跡周辺に存在する遺跡からの流入によるものと推測される。

なお、炭焼遺跡について、道路を境にした南側調査区については今年度未調査であり、来年度に対応することになっている。（※当初予定面積1,000㎡、今年度終了面積600㎡、未調査分400㎡）

今回の調査では古代の官道や駅跡の遺構こそ検出できなかったが、富士山起源と見られる火山灰層や山の神川上流から押し流された数次に渡る砂礫の堆積が確認され、この地が噴火による降灰と水害とにさいなまれてきた歴史を持つ地域であることが明らかになり、今回調査を実施した両遺跡については比較的災害が少なかった地域で、かろうじて消失を逃れたものと推測できる。

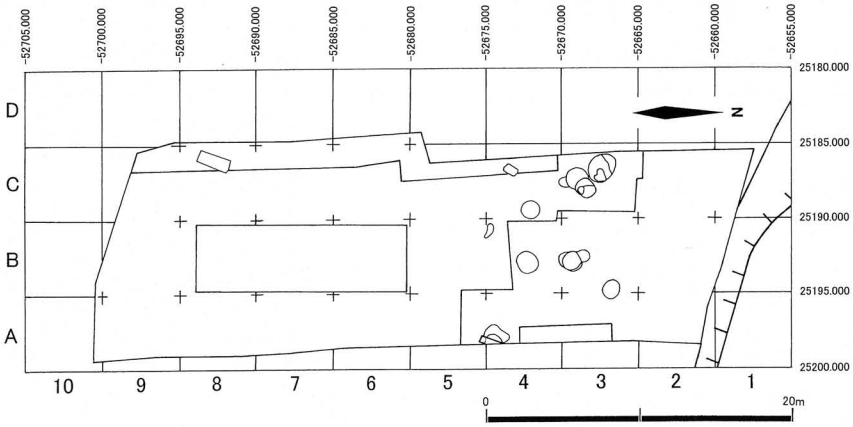


井坪遺跡全体図



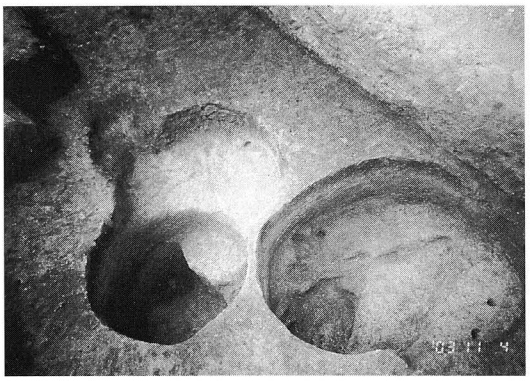
井坪遺跡７号畝状遺構検出状況

井坪遺跡土器集中区遺物出土状況



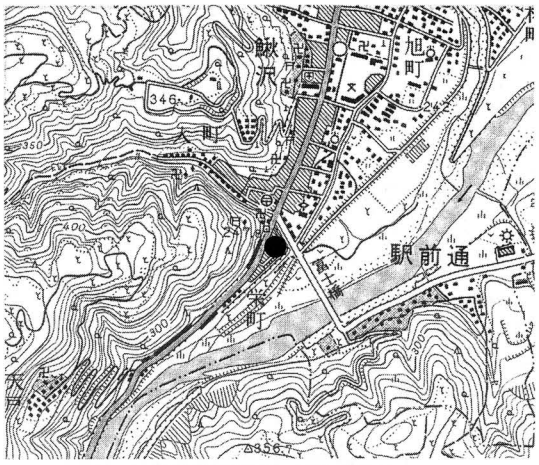
炭焼遺跡全体図

炭焼遺跡作業風景



炭焼遺跡土坑完掘状況

3．鰍沢河岸跡（かじかざわかしあと）A



鰍沢河岸跡　位置図

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町白子明神地区（鰍沢町1421外）
事 業 名　水防災対策特定河川事業
調査期間　2003年７月28日～2004年１月30日
調査面積　5,515m²
担 当 者　保坂 康夫・野代 恵子・一瀬 一浩

甲府盆地を代表する河川である笛吹川と釜無川の合流点から約３km下流に鰍沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点ともなっている。「鰍沢河岸跡」は江戸時代に開かれた富士川舟運の船着場であり、青柳河岸・黒沢河岸とともに甲州三河岸として大いに発展し、今日の鰍沢町発展の基礎となっている。この事業は2000年から発掘調査を着手したもので、これまでに甲府代官所支配下の年貢米を集積した御蔵台跡・御米蔵跡・道路跡・河岸問屋街跡などを確認している。

河岸問屋街跡最北部（Ａ２区・Ｘ１区・Ｘ２区・Ｘ３区）

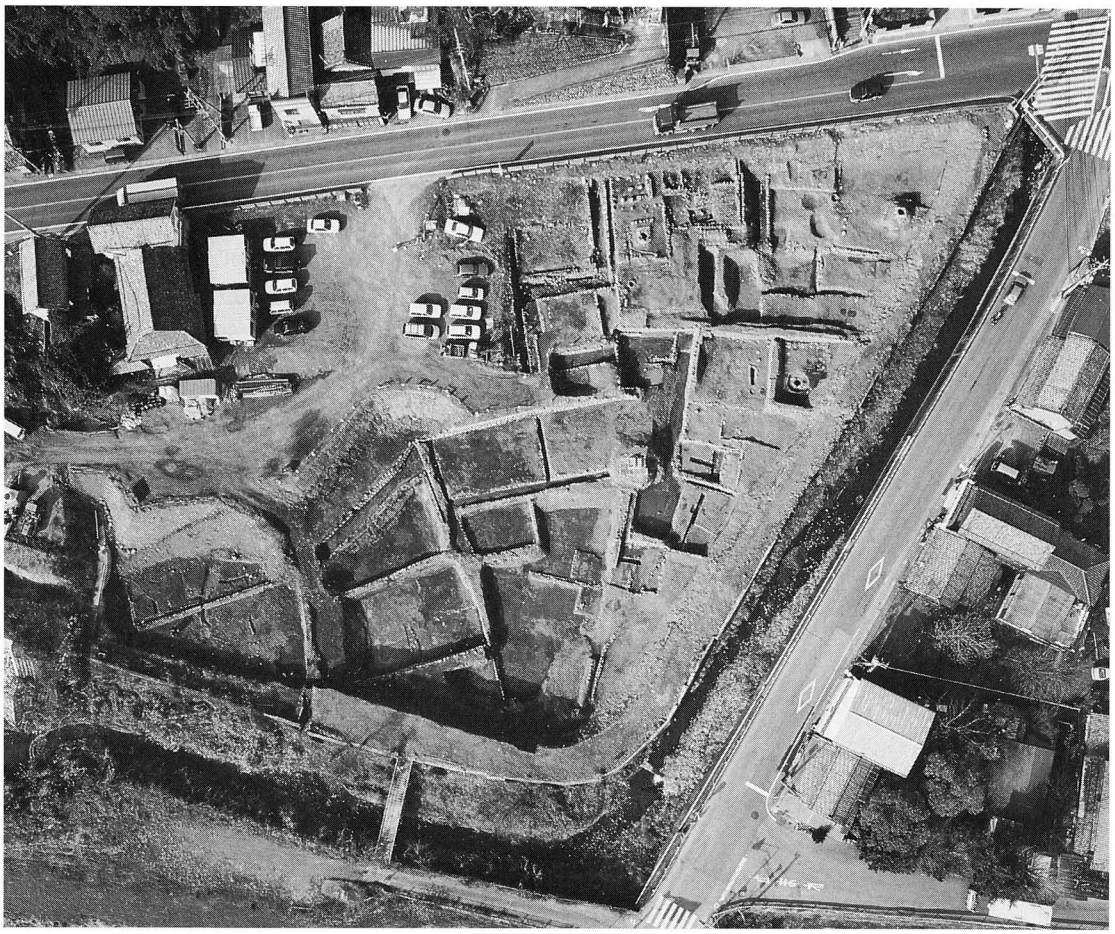
今年度の調査区は、西を国道52号に、北を南川に限られる事業対象地の最北隅にあたる。一面に焼土が広がる面を確認し、この面からは石垣が集中して発見された。この焼けた面は、文政４年（1821）の大火にあたるものと考えられる。焼土を取り除いていくと、多くの陶磁器片とともに礎石が並んで現われた。石垣は地割を示しており、礎石を伴う焼失家屋跡には、建築部材であったと考えられるホゾ穴や組み部が残る炭化材が多く残されていた。その他、壁材であったと考えられる漆喰が焼けたものや、竹を格子状に組んだもの、あるいは布なども炭化した状態で発見されている。厚い焼土が堆積する範囲は調査区全体に及んでおり、この火事が文献にもみえるようにその後の河岸存続を脅かすような大きな火災であったことを物語っている。この面で確認された地割については、江戸時代の終りに描かれたと考えられる「海野家絵図」の地割とほぼ一致することが明らかとなった。石垣に囲まれた地割の中に並ぶ礎石については、ほぼ同じような位置に２つずつ並ぶものも見られ、建て替えがあったことも想定される。

焼失家屋の中には、礎石周辺から多くの寛永通宝がばらまかれた状態で発見されているところや、銭貨の穴に紐などを通してあったかのように10～20枚重なった状態で出土しているものもあり、何らかの地鎮的行為が行なわれていた可能性もある。また、礎石は残されていなかったものの、「海野家絵図」にあるように、屋敷の敷地内であったと考えられる場所からは穴の底に少量の灰を入れ、その後擂鉢を埋設した遺構を確認した。擂鉢の中には少量の灰と多くの炭が充填されており、この中からも寛永通宝が６枚ほど出土した。これまでの調査でも幾つかの地鎮的行為の痕跡が指摘されており、このような実用性に乏しい遺構については祭祀的な性格をもつものである可能性もある。この他にも、拳大ほどの石で囲われた深さ50cm程度、150cm×50cm規模の石囲遺構が１基、同じ構造をもつ70cm×30cm規模の石囲遺構が１基確認された。どのような性格をもった遺構であるか断定できないが、内部には焼土塊・炭・燃えた繊維状のものが多量に残されていることから、中で火を燃やした炉のようなものであったと考えられる。その中からは50本を上回る大小様々な大きさの釘も出土している。釘がついたままの材を燃料として燃やしたものとも考えられるが、釘を取り外してリサイクルせずに燃料にしてしまったものかどうか疑問は残る。

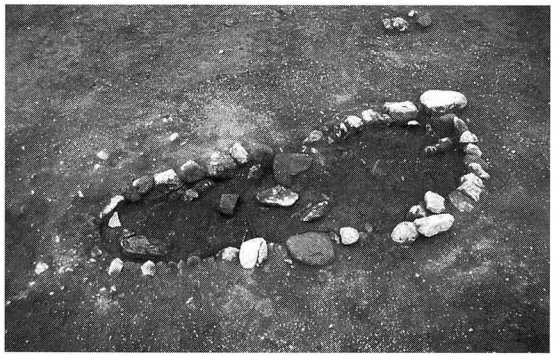
文政の大火面からさらに50cm強ほど掘り下げた位置からは陶磁器を伴なう層を、そこからさらに150cmほど掘り下げた位置からは礎石や石列を伴なった面を確認した。この面については、文政段階の地割と比べてその位置や方向が踏襲されておらず、出土する陶磁器についても文政面とは異なる。また、磁器に比べて陶器の占める割合が圧倒的に多く、陶磁器の形態的な特徴などから文政の大火よりもおよそ100年ほどさかのぼる時期のものであると考えられる。この面では、土地条件がそれほどよかったとは思えない富士川寄りの区画から、茶壺

やお歯黒壺として使われた水注などの非日常的な器種が見つかっており、街道から離れた川に近い不安定な場所でもこのような器種を所有できる階層の人々が暮らしていた可能性もある。

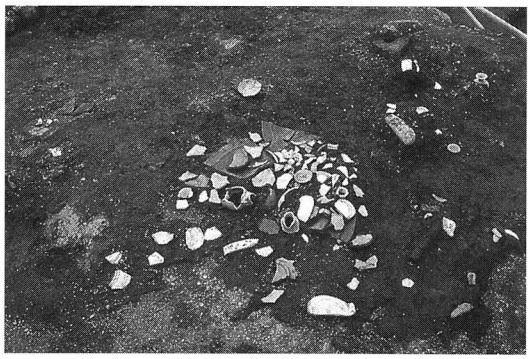
今回調査を行なった地区については、河岸にともなう問屋街域という性格付けがなされているが、今回の調査で見えてきたのは庶民の日常的な暮らしの場であった。これまでの調査でもいわれているように、街道沿いには店子が並ぶ表の顔があり、街道から路地に入った場所ではそれを支える人々の日常的な暮らしがあったことを物語っている。これは現在の鰍沢の町並みとも共通している。時代が変わっても土地利用の傾向は息づいているといえるのではないだろうか。一方、それからおよそ100年ほどさかのぼった時期には、土地条件がよくない川側の区画から茶壺、水注、水滴など非日常的な器種が出土していることから、これとは全く異なった町並みが広がっていた可能性が高い。



本年度調査区全景（上空より）



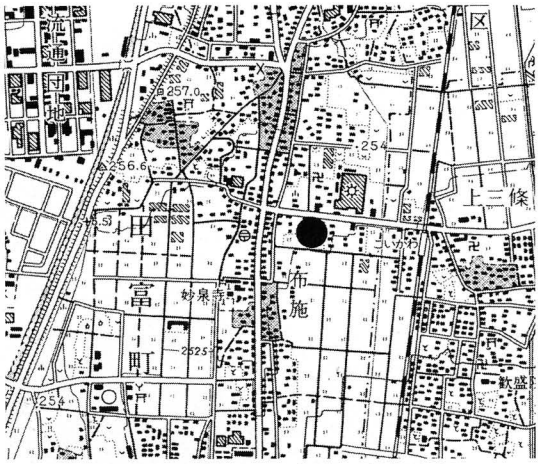
石囲遺構



遺物出土状況

4．小井川・小河原遺跡（こいかわ・こがあらいせき）

所 在 地　中巨摩郡田富町布施地内
事 業 名　新山梨環状道路建設
調査期間　2003年10月１日～2004年１月６日
調査面積　2,000㎡
担 当 者　小林広和・猪股一弘



小井川・小河原遺跡　位置図

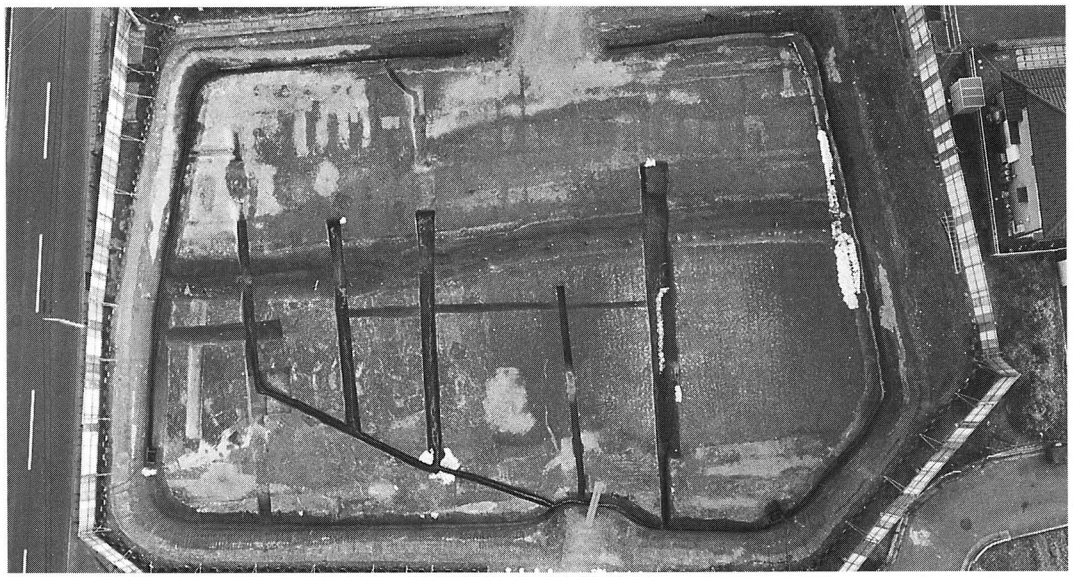
本遺跡の存在する田富町は甲府盆地の南部に位置し、隣接する玉穂町・昭和町とともに県下で最も平坦部の多い低地で、内陸県の山梨県では数少ない山のない町でもある。また、遺跡付近は標高約252mで、西方を北から南に向かって流れる釜無川、南部を東から西に向かって流れる笛吹川によってもたらされた土砂や礫の堆積作用によって生じた沖積地、すなわち氾濫原地帯である。

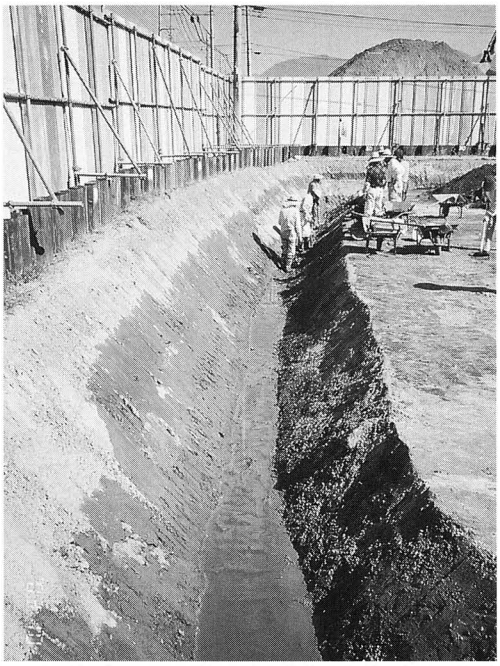
調査区域は、低地であるとともに地下水位も高く、釜無・笛吹両河川の合流点方向に流動するかなり圧力の高い地下水の自噴帯である。そのため、水路を遮断するためのシートパイルを事前に調査区の全周囲に設置するとともに、排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、水中ポンプで排水しながら発掘を実施した。

試掘調査の段階で溝・桶等が確認されていたため、重機による表土剥ぎ実施後、東西に数本トレンチを設定し、土層を確認しながら人力によって精査した。また、雨天時の水量や流水方向によっては土層面などの土砂の崩れがあったので、土嚢を積み上げながら慎重に調査を進めた。

その結果、南北に走る杭打ち溝が２条、桶の底部や石臼とともに検出された墓が４基確認された。杭打ち溝の一つ（２号溝）は巾が50㎝前後で小規模であり、撹乱のため調査区域途中で消滅していた。もう一つ（１号溝）は自然溝に人工溝が重複している状態で、縁には木や竹で土留めが造られている箇所が検出された。遺物に関しては、中世に属する若干の土器や陶磁器等の他、桶底部、石臼、主に杭打ち溝から陶磁器、土器、鉄器、しゃもじ、椀、装飾品、古銭など江戸時代後期と思われる生活に密着した遺物が出土しており、中には完形品も含まれている。また、これら遺物の他に魚の骨・鱗、昆虫類、植物なども採取された。

調査区域近辺にはかつて寺院が存在し、墓地も調査区西側に隣接していたことが確認されている。このことと、上述したことを総合的に考えると、江戸時代の住民の生活は寺院を中心とした空間により確立されていて、身近な溝が生活のあらゆる面で便利に利用をされたのではないかと想像される。


調査区全景（空撮）

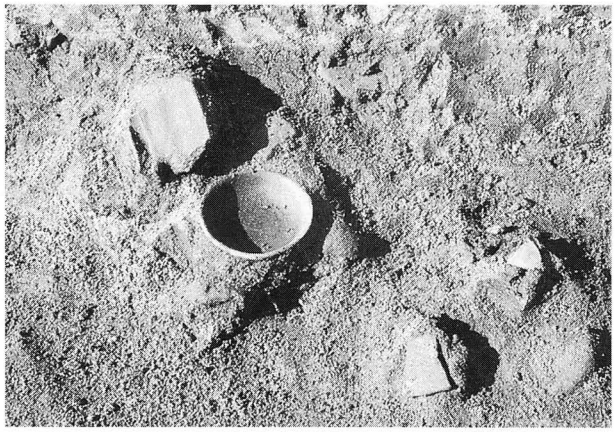


シートパイルと排水用の溝

調査区全景（南東から）

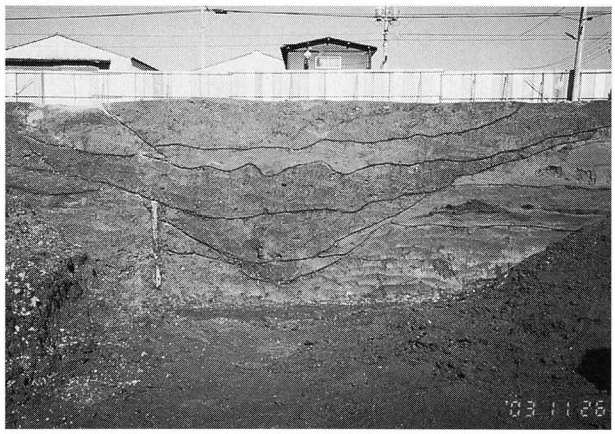
1号溝完掘状況

椀出土状況



土器出土状況

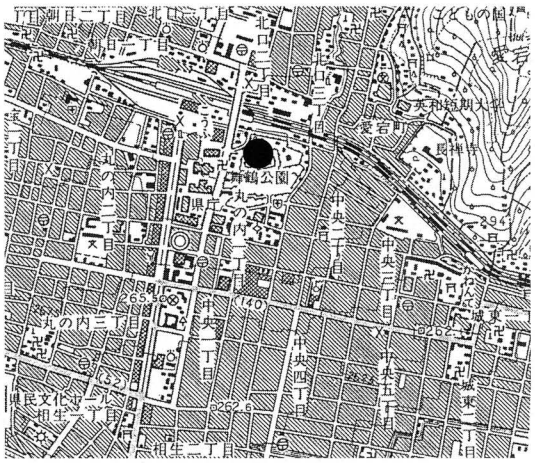
桶底出土状況



1号溝土層（3号トレンチ北壁）

5．甲府城跡（県指定史跡）関連事業

所 在 地　甲府市丸の内１丁目地内
事 業 名　舞鶴城公園整備事業
調査期間　（４月１日～３月31日）
調査面積　1,800㎡
担 当 者　宮里　学・楠間 美季江・西海 真紀



位置図

県指定史跡甲府城跡では舞鶴城公園整備事業を実施しており、本年で14年目をむかえた。これまでに鍛冶曲輪門、稲荷門、内松陰門の三つの門が復元され、平成16年３月に稲荷櫓復元工事が完了した。

今年度は、平成16年度の「甲府城跡総合調査報告書（仮）」刊行にむけての整理作業をすすめてきた。主な内容は、瓦、陶磁器、石造物などの出土遺物の実測作業や分類作業、原稿執筆作業である。あわせて資料調査も実施し、甲府城関連絵図の確認調査を国立公文書館、しろはく古地図と城の博物館富原文庫、静嘉堂文庫、県内個人宅など数回にわたり資料調査をおこなった。

７月10日に15年度第１回甲府城跡調査検討委員会を開催し、稲荷櫓の整備状況やおよび総合報告書刊行へむけての整理作業状況を報告し、指導・助言を得た。

そのほかに稲荷櫓公開に伴う周辺整備、公園内の園路等の整備工事に関連する立ち会い調査を継続的におこなった。

本年度は、稲荷櫓の屋根が概ね完成した６月７日に県民を対象とした第４回稲荷櫓見学会を実施した（約300名参加）。内容は稲荷櫓の内部見学のほか、瓦葺きや土壁づくりの伝統技術の説明をおこなった。また、土壁塗り体験、瓦葺き体験、児童を対象とした木組み競争などのコーナーも設け、伝統技術にふれ、体験できる見学会とした。

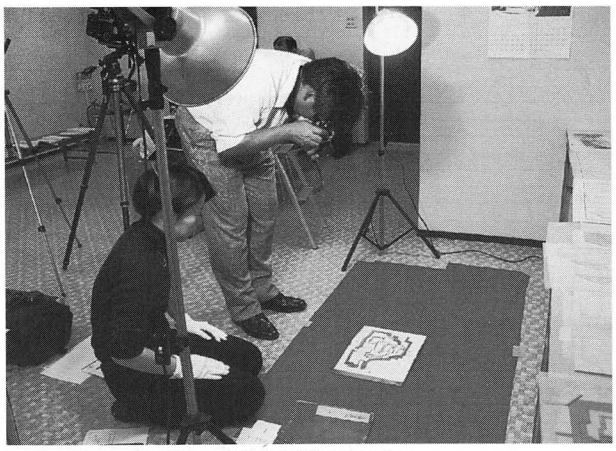
また、広報活動として、当センターの広報誌「埋文やまなし」第15号甲府城特集で、稲荷櫓および櫓台石垣の復元・改修工事にかかわる伝統技術についてとりあげた。発掘調査によって明らかになった石積の技術や改修作業の様子を紹介し、稲荷櫓についても建設工事にもちいられている伝統技術を中心に紹介し、文化財についての理解を深めてもらえるような内容とした。また、県土木部発行の公園内で配布されるパンフレットである「舞鶴城公園」の作成や、公園内の案内板と稲荷櫓内に設置される解説板の作成に協力し、甲府城の歴史、発掘調査や整備の根拠となった資料などをもとに公園内の文化財について、親しみやすい内容を心がけた。

このほか、１月22日～23日におこなわれた第１回全国城跡等石垣整備調査研究会に出席し、稲荷櫓台石垣の改修工事についての実施成果を報告した。

整理作業のようす（瓦の分類作業）

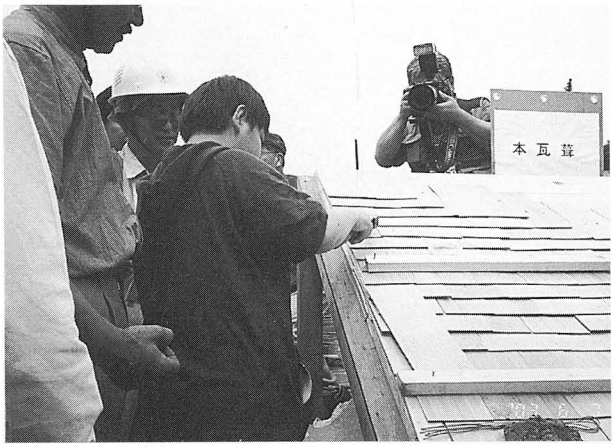
整理作業（出土品の実測作業）

甲府城跡調査検討委員会のようす

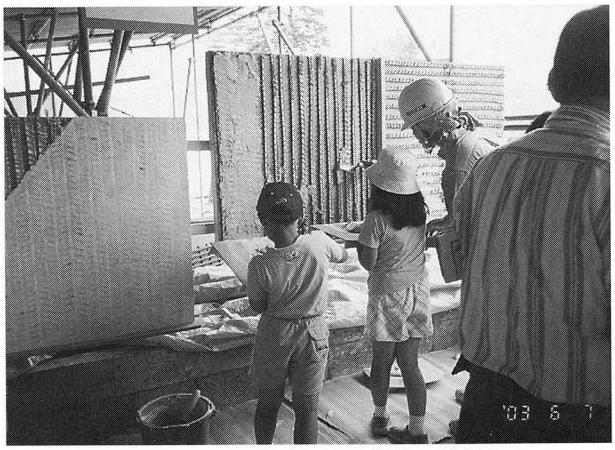


絵図の確認調査

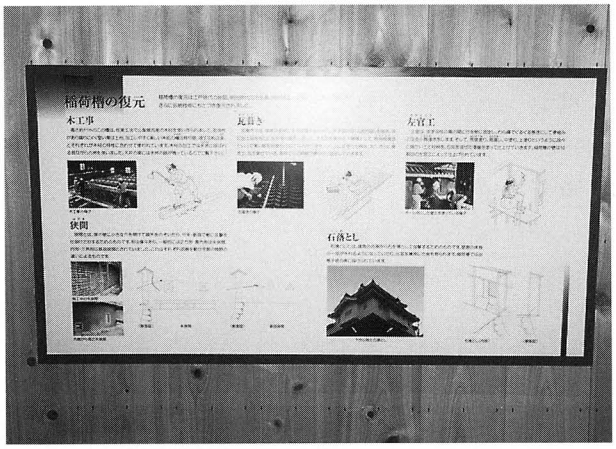
見学会のようす（職人さんによる瓦の説明）



見学会のようす（野地板葺体験）



見学会のようす（土壁塗り体験）



稲荷櫓内　展示パネル

6．県内分布調査

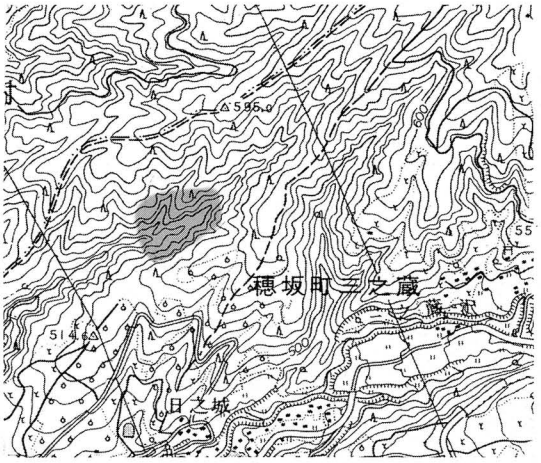
6－1　県道17号（七里岩ライン）拡幅工事に伴う試掘調査（能見城）

試掘調査　位置図

所 在 地　韮崎市穴山町夏目4062
遺 跡 名　能見城跡
調査期間　2003年４月17日～18日
調査面積　５㎡
担 当 者　長沢 宏昌・小林 孝子・小林 弘典

調査対象地は甲府盆地の北西部を流れる塩川と釜無川の間の台地上に位置する。調査は土塁状の盛土の平面図及び等高線図を作成し、重機でカットし、断面観察を行った。その結果、盛土部分からは古い水道管の埋設及び昭和初期の瓦破片の廃棄層が認められ、攪乱を受けていることがわかった。また、土塁下層部には３層から４層の粘土層が堆積していたが、ローム層に粘土層が混入する形態は韮崎市の基本土層にはよく見られるものであることから、下層部は土塁とは無関係の自然な堆積であることがわかった。

6－2　県立射撃場建設に伴う試掘調査

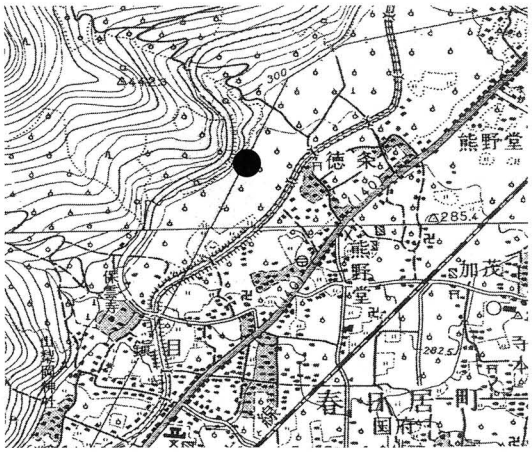


試掘調査　位置図

所 在 地　韮崎市穂坂町三之蔵字牛ヶ馬場地内
遺 跡 名　牛ヶ馬場遺跡
調査機関　2003年４月21日～５月21日
調査面積　96㎡（調査対象面積 91,000㎡）
担 当 者　猪股 一弘・村石 眞澄・野代 恵子・一瀬 一浩

穂坂町は『延喜式』に掲げられる甲斐の御牧のひとつとして名高い穂坂牧で知られる。試掘対象地は複数の尾根とそれらに囲まれた沢を包括した地形であることから、尾根上や比較的緩やかな斜面部を選定してトレンチを24本設定した。沢部については踏査を行なった。土層は尾根や尾根上の位置によって異なるが、基本的には大小様々な風化岩片が含まれていることから、より上方から崩落してきた土や岩盤片などが粘土化して堆積したものと考えられる。いずれからも遺物・遺構などは確認されなかった。ただし、対象地に隣接する尾根上の畑からは黒曜石や土器片が採集されたことから、周辺の緩斜面部や広い尾根上には遺跡が存在する可能性が高い。

6－3　西関東道路建設に伴う試掘調査（上町田遺跡）



試掘調査　位置図

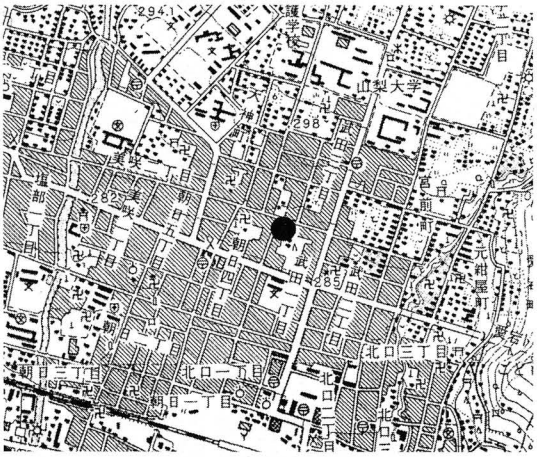
所 在 地　東山梨郡春日居町鎮目1186－1番地
遺 跡 名　上町田遺跡
調査期間　2003年５月８日～９日
調査面積　20㎡（調査対象面積 700㎡）
担 当 者　長沢 宏昌・竹本 健太郎

遺跡は笛吹川によって形成された扇状地の西縁、兜山山塊の山裾に位置する。遺跡立地面は平坦で、南西方向に緩やかに傾斜している。試掘は、対象範囲に幅２m、長さ10mのトレンチを３本設定し、重機によって掘削した後、人力により遺構・遺物の有無

を確認した。いずれのトレンチでも、約50㎝の表土下に灰色～暗灰色粘質土が50～60㎝程度堆積しており、その下は砂礫層もしくは黄色砂質土となっていることが確認された。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内ではあるが、遺構・遺物とも全く確認されず、本調査の必要はないと判断した。

6－4　裁判所長宿舎建て替え工事に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡）

所 在 地　甲府市武田１丁目88－1
遺 跡 名　甲府城下町遺跡
調査期間　2003年５月14日
調査面積　4.18㎡（調査対象面積 334.5㎡）
担 当 者　網倉 邦生・竹本 健太郎



試掘調査　位置図

宿舎の東側に３本のトレンチを設定し、掘り下げを行った。この結果、地表下15～30㎝の位置で近世・近代の遺物包含層が確認された。この遺物包含層は暗褐色を呈し、全てのトレンチに認められるが、この土層からは明確な遺構は検出されなかった。また、１m65㎝の位置まで深掘りを行ったが、遺構・遺物は出土していない。土層は１m程度の位置より細砂層に変化する。

6－5　山梨大学クリーンエネルギー研究センター増設事業に伴う試掘調査（武田城下町遺跡）

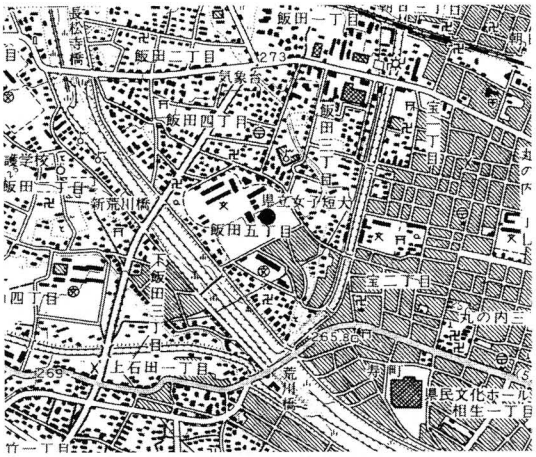
所 在 地　甲府市宮前町７－32　山梨大学内
遺 跡 名　武田城下町遺跡
調査期間　2003年５月20日
調査面積　２㎡（調査対象面積 200㎡）
担 当 者　長沢 宏昌・小林 弘典

試掘調査　位置図

調査対象地は武田氏館跡の南東に位置し、山梨大学クリーンエネルギー研究センターの北側に隣接する花壇である。調査区内の地下に数本のパイプが通っていたため、地下にパイプのない２㎡の部分に１本のトレンチを設定した。２㎡の内半分は攪乱となっており、１㎡分のみの観察となった。暗褐色粘質土・褐色粘質土がブロック状に含まれる暗褐色粘質土が確認され、これらの層位全てにおいて遺構・遺物の出土は認められなかった。

6－6　県立女子短期大学校舎改築に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市飯田５丁目11－１地内
調査期間　2003年７月29日
調査面積　14㎡（調査対象面積100㎡）
担 当 者　保坂 康夫・竹本 健太郎



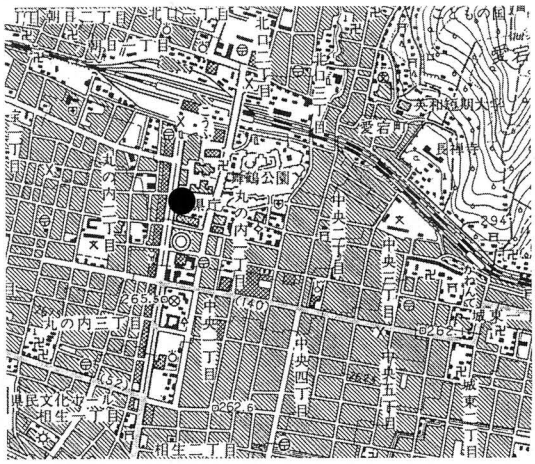
試掘調査　位置図

改築予定建物に隣接した地点に試掘溝を設定し、遺構・遺物の有無の確認調査を行った。小型重機で３本のトレンチを掘削し、人力で壁面、底面を精査した。１・２トレンチは１m×４m。３トレンチは1.5m×４mで、深さは１・３トレンチで1.4m、２トレンチで1.2mである。

土層は、１トレンチ、３トレンチでは地表下40～50㎝が褐色土、砕石などの造成層で、以下50㎝から140㎝では砂礫層、黒灰泥質シルト層（土壌化）、白色砂層、白灰シルト、黒灰泥質シルト層（土壌化）、黒色泥質層（土壌化）、白色粘砂層が見られた。黒灰泥質シルト層、黒灰泥質シルト層、黒色泥質層は土壌化していると見られ、この層の上面で一時的に地表面が形成されたと思われるが、いずれも河川性の堆積物である。２トレンチでは砂礫層中に深い攪乱が見られ、地表下120㎝まで廃棄物が及んでいた。１～３トレンチにおいて遺物・遺構などの存在は確認できなかった。

6－7　山梨県庁構内駐車場建設に伴う試掘調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内１丁目79番地外
事 業 名　山梨県庁構内駐車場建設地の発掘調査
調査面積　437.7㎡
担 当 者　宮里 学



試掘調査　位置図

本調査は、県庁構内駐車場建設予定地を対象におこなわれた発掘調査であり、当該地は「県指定史跡甲府城跡」の範囲外であるが、従来より「柳門」（別称として西門・柳御門など）の所在地として留意してきた経緯がある地点である。

柳門は、甲府城の追手門・山手門に次ぐ格式のある門として、重要視されてきた門でもあるが、築城期の資料が少ないため当初の様相は不明であり、明確に形状や大きさが文献史料に描かれるようになるのは寛文年間（1661～73）以降である。

明治時代になってからは、旧陸軍史料『大日記』にたびたび登場するが、明治10年以降に門・番所・塀などの構造物は撤去あるいは移築され、周辺部の石垣・堀も近代化のなかで埋め立てられ、市街地化されている。

調査方法は、事前に江戸期の絵図確認や、現況で石垣の一部と考えられる石材が地表面から露出していたことなどから、柳門に連結する石垣と堀が検出されると想定したうえで、設定したトレンチを重機掘削し、人力で精査・確認することとした。

当該地の南側で南北方向、長さ６×幅１×深度１mで設定したトレンチでは、北端で面を南に向けた扁平な石材を確認した。

これは、江戸期の絵図から階段石であることが判明した。なお、トレンチの底部付近では奈良・平安時代に属す土器類と土坑の断面も確認された。

当該地の中央に設定した長さ10×幅２×深度0.5～２mのトレンチをＬ字状に設置し、東西方向へ延びる石垣（以下、東西石垣）と南北に延びる石垣（以下、南北石垣）、および階段石を確認した。

東西石垣は、絵図などから柳門エリア（虎口付近）と堀を区画する石垣と判明した。石材の加工状況では「野面石（無加工の自然石）」も使われているが、「加工石」の方が多用されていた。さらに積み方、目地（石同士の隙間）の様相から築城期石垣の特徴がないため、築城期以降の江戸期に手を加えられた石垣であると判断できる。天端部分は削平され消失しているが残存部の勾配が70°前後を示している。この数値は統計的に天端付

近の角度であることから、消失高は推定で１～1.5mと推定することができる。

南北石垣では、石垣とこれにともなう裏栗石を検出した。絵図などから柳門の北側袖から北方へ延び（ＪＲ甲府駅北口付近まで)、城内と堀を区画する石垣でトレンチ１の東西石垣とは入積みで連結されていると判明した。

石材は「野面石」が主体となっている積み方であることから築城期石垣と判断できる。また、１m以上の大きな石材が使用されていることから「見栄え」を意図的に表現した可能性が高い。裏栗石については円礫が主体となっている。

当該地の北側で、長さ３×幅2.5×深度1.5mのトレンチを設置し、上述した南北石垣の北側延長上の一部を確認した。やはり、南北石垣と同じく城内と堀を区画する石垣であり、石材は「野面石」が主体となっている積み方であることから築城期石垣と判断した。さらに、１m以上の大きな石材が使用されていることから同様に「見栄え」を意図的に表現した石垣である可能性が高い。

今回の調査により、江戸時代の絵図に描かれている甲府城の構造と一致する石垣、階段の一部を検出し、確認することができた。

石垣はその特徴から南北石垣は築城期、東西石垣は江戸期に属する特徴を持つものであることがわかり、両者は入積みで連結していることが判明した。石垣構造は裏栗石と盛土を伴うものであった。

また、検出されて石垣の延長線は磁北に対して、南北石垣は東へ15°、東西石垣は北へ20°の差をもっており、現在の土地区画とはズレを持っている。

さらに、検出された石垣は天端付近は明治期以降に除去され消失しているが、埋設部分は良好に残存していることが判明し、石垣、石段の一部は現況地表面に露出していることからも、今後周辺地域の掘削時には留意する必要が認められた。

今回の調査を経て、南北石垣と東西石垣の入積み部分を基点に柳門を中心とした甲府城の位置関係が明確になった。

調査終了後は、当該地は盛土で養生したうえ埋設保存とし、現在は県庁構内駐車場となっている。また、着手前から大小の石材が転石として存在していたが、埋め戻しに伴いトレンチ１にあわせて埋設した。小型の割石・加工石などは除き、個体数は19石で、埋設深度は標高273.3mの地点である。

トレンチ掘削の状況

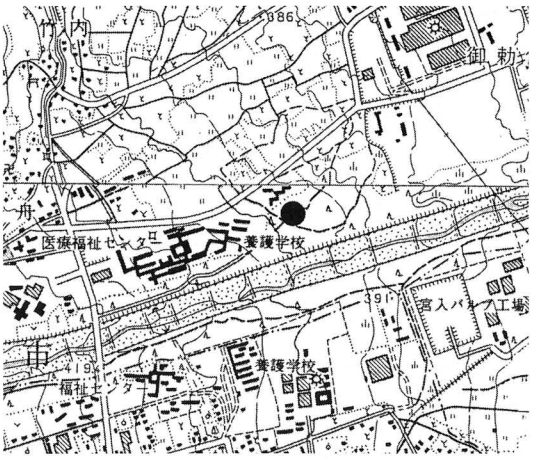
検出された石段

検出された東西石垣

調査範囲全景

6－8　あけぼの医療センター改築工事に伴う試掘調査

所 在 地　韮崎市旭町上条南割字御勅使3294他
調査期間　2003年９月25日～26日
調査面積　90.5㎡（調査対象面積 66,000㎡）
担 当 者　網倉 邦生

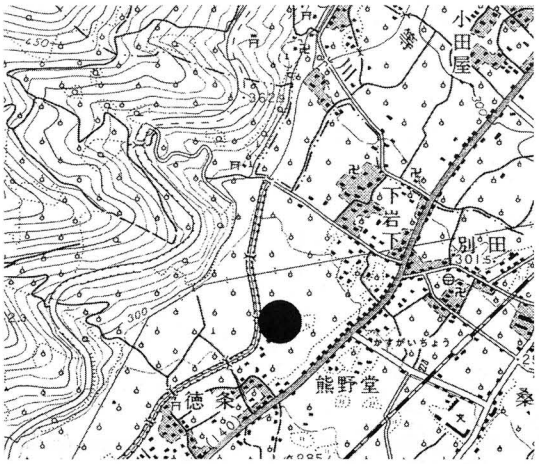


試掘調査　位置図

工事を実施する地点は御勅使川堤防跡群に近接するため、試掘調査を行うこととなった。平成14年度の試掘調査により、建設予定地西側における遺構存否の確認は終了したため、予定地内に５本のトレンチを設けて掘り下げを行った。この結果、地表下１～２mの盛土層の下に自然堆積と考えられるシルトと砂層の互層が存在したが、遺構・遺物は出土しなかった。最終的に2.5mの位置まで深掘りを行ったが、堤防関連の遺構は検出されなかった。

6－9　西関東道路関連取り付け道路建設に伴う試掘調査

所 在 地　東山梨郡春日居町下岩下字柳田地内
調査期間　2003年11月26日
調査面積　98.4㎡（調査対象面積 925㎡）
担 当 者　坂本 美夫

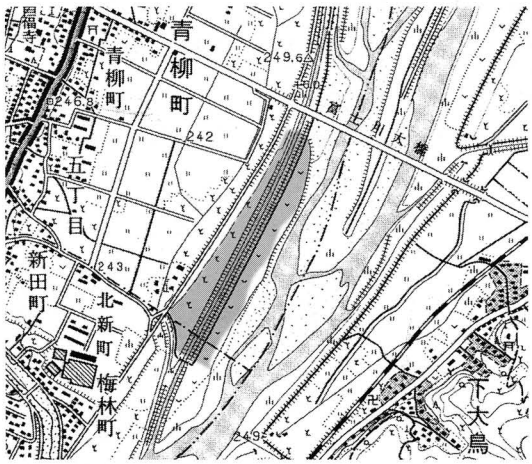


試掘調査　位置図

今回の調査区は平成14年度の試掘調査地に挟まれた道路建設予定地で、南北方向のトレンチを４本設定し、重機による掘削後、人力でトレンチ壁面・底面を精査し、遺構・遺物の確認を行った。土層の堆積は基本的に粘質土と砂質土の互層になっており、1.2m程の深さで平等川の旧河道とみられる砂礫層が確認された。自然の溝が確認された以外は遺構は確認されなかった。遺物も表土下の砂質褐色土層中より土師器小片が１点確認されたのみである。

6－10　国土交通省河川改修工事に伴う試掘調査（青柳河岸跡）

所 在 地　山梨県南巨摩郡増穂町青柳地先
遺 跡 名　青柳河岸跡
調査期間　2003年11月26日～12月16日
調査面積　2,086㎡（調査対象面積 160,000㎡）
担 当 者　今福 利恵



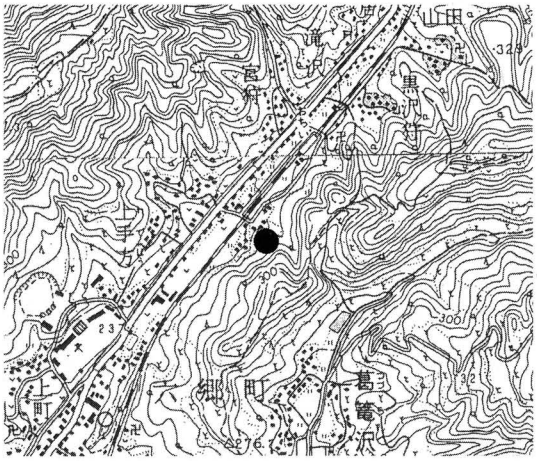
試掘調査　位置図

調査対象地は富士川堤防内の河川敷となるが、その中に五明川とその小堤防が縦断しており、この護岸施設を除いた平坦地に37ヶ所の試掘坑を設定した。青柳河岸跡周辺は古い河川改修により削平されているが、部分的には遺構が残っていることが確認でき、礎石や江戸から明治期の陶磁器片が多数出土した。また、川岸付近からは地表下約５m程より打ち込まれた杭が多数検出された。杭には手斧痕が残り、江戸期頃のものと思われる。試掘調査を行った中では、全体で約13,500㎡が適切な保護措置が必要となる。

6－11　地滑り対策工事に伴う試掘調査（六郷町一の坪地内）

所 在 地　西八代郡六郷町一の坪地内
調査期間　2004年１月７日～８日
調査面積　８㎡（調査対象面積320㎡）
担 当 者　網倉 邦生

工事を実施する地点は中世の包蔵地である一の坪遺跡に近接するため、試掘調査を行うこととなった。施工範囲内に２本のトレンチを設け、掘り下げを行った。この結果、地表下20㎝程の位置において近世の遺物包含層が確認されたものの、中世の遺物は出土しなかった。

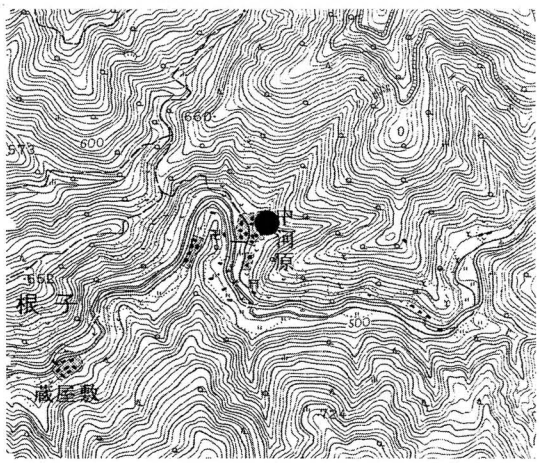


試掘調査　位置図

6－12　地滑り対策工事に伴う試掘調査（赤池氏屋敷）

所 在 地　西八代郡下部町根子字中河原地内
遺 跡 名　赤池氏屋敷
調査期間　2004年２月12日～13日
調査面積　６㎡（調査対象面積296㎡）
担 当 者　網倉 邦生

施工範囲内に５本のトレンチを設けて掘り下げを行った。この結果、１～３トレンチにおいて地表下70㎝程度の位置まで、山から崩落したと捉えられる茶褐色土層が確認された。また、沢に近い４・５トレンチには水路造成に伴う硬化面が認められたものの、中世の遺構・遺物は検出されなかった。

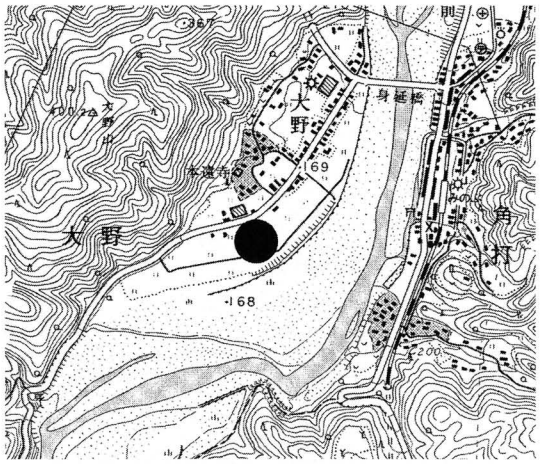


試掘調査　位置図

6－13　大野築堤護岸工事に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡身延町967番地先
遺 跡 名　大野堤防遺跡
調査期間　2004年２月16日～23日
調査面積　1,036㎡（調査対象面積30,000㎡）
担 当 者　長沢 宏昌・小林 弘典

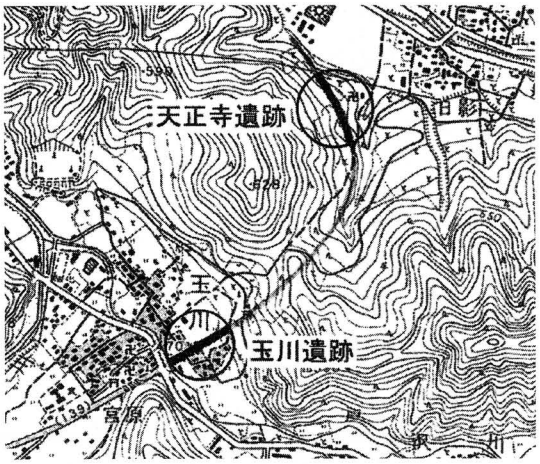
調査対象地は日蓮宗本山・大野山本遠寺東側の富士川河川敷であり、来年度以降の建設地を対象に旧堤防の有無を確認した。調査は富士川右岸の上流部から下流部に向かって、流れに直交する方向に16本のトレンチを設定し、堤防を断面で確認することを試みた。その結果、全てのトレンチで砂礫の自然堆積が確認され、人工的な堤防の痕跡は確認されなかった。



試掘調査　位置図

ただし、立木や人家の存在する部分に明らかな石垣を伴う土手状の高まりがあり、これが旧堤防である可能性は考えられる。しかし、今回の調査ではこの部分にトレンチを設定することができなかったため、工事着手前に再度試掘調査を行うなどの検討が必要である。

６－１４　一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査（玉川遺跡・天正寺遺跡）



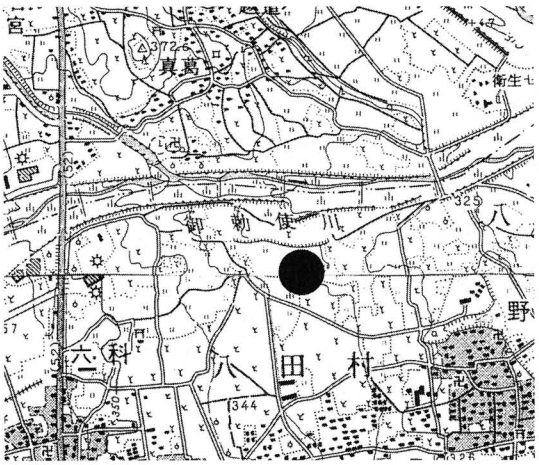
試掘調査　位置図

所 在 地　都留市玉川字金山地内・井倉字赤沢平地内
遺 跡 名　玉川遺跡・天正寺遺跡
調査期間　2004年２月16日～24日、３月15日
調査面積　約142㎡（調査対象面積 5,450㎡）
担 当 者　高野 玄明・正木 季洋

予定路線内に幅1.2～2.0m、長さ2.0～25.0mのトレンチを９本設定し、ミニユンボ及び人力により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。玉川地内においては、黒色粘質土中から縄文時代の土器片、平安時代末から中世の青磁・白磁片、常滑片等が中心として確認され、出土遺物に伴い溝状遺構等のプランが確認されている。天正寺地内については、2.0m×4.0mの試掘トレンチ１本を設定し、調査を行った結果、縄文時代と思われる土坑のほか、同時代の土器片、石器の剥片、中世の天目茶碗の破片が確認されている。このため、周知である玉川遺跡の範囲を追加修正し、新規の埋蔵文化財包蔵地として天正寺遺跡を確認した。

なお、天正寺西側山林の一部約2,000㎡を対象に３月15日に人力による試掘を追加実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

６－１５　工業振興地域内における試掘調査（野牛島遺跡・西之久保遺跡）



試掘調査　位置図

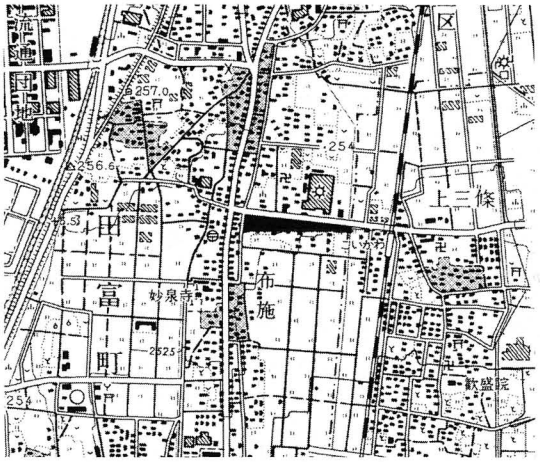
所 在 地　南アルプス市野牛島字西ノ久保2888番地他
遺 跡 名　野牛島・西ノ久保遺跡
調査期間　2004年３月８日～11日
調査面積　600㎡（調査対象面積 3700㎡）
担 当 者　長沢 宏昌・小林 弘典

今回の対象地は、西に大塚遺跡、南東に石橋北屋敷遺跡が存在する位置関係であり、本調査は行われていないものの本遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、平安時代～中世の遺構の存在が予想されていた。調査はトレンチを22カ所設定し、土層堆積状況と遺構・遺物の有無を確認した。

その結果、対象域北側に竪穴住居跡２軒と同時期と思われる溝・土坑などの遺構が確認されたが、南側はかつて遺構が存在したであろう生活面は全て削平され、遺構・遺物とも全く確認されなかった。

6－16　新山梨環状道路建設工事に伴う試掘調査（小井川・小河原遺跡）

所 在 地　中巨摩郡田富町布施地内
遺 跡 名　小井川・小河原遺跡
調査期間　2004年３月16日～19日
調査面積　約407㎡（調査対象面積 5,780㎡）
担 当 者　高野 玄明・正木 季洋

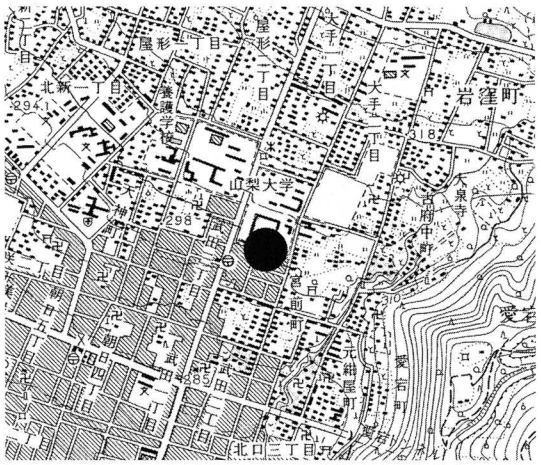


試掘調査　位置図

予定路線内に幅1.3m、長さ8.0～33.0mのトレンチを19本設定し、重機により段階的に掘り下げ、人力での精査により遺構・遺物の確認を行った。その結果、法星院墓地跡から近世の円形及び方形の木棺墓や、中世の様式を呈する五輪塔や石塔類の部材等が検出された。この他、遺構として、溝状遺構や土坑、杭列等が検出され、それに伴い土師質土器片、陶磁器片等が出土している。

6－17　山梨大学工学部総合研修棟改修に伴う仮設プレハブ建設立会調査（武田城下町遺跡）

所 在 地　甲府市武田４丁目４－37（山梨大学工学部敷地内）
遺 跡 名　武田城下町遺跡
調査期間　2003年５月23日
調査面積　11.7㎡（調査対象面積 173㎡）
担 当 者　坂本 美夫・高野 玄明

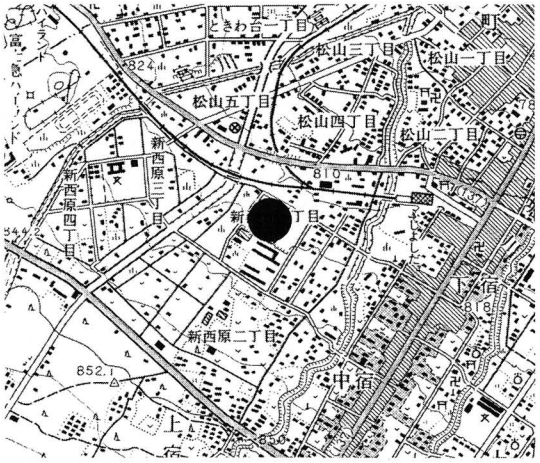


立会調査　位置図

事業予定地内に重機により幅0.9m、長さ3.0～10.0mのトレンチを２箇所設定し、基礎床面とされる深さ0.7mまで掘削し、調査を行った。調査の結果、山梨大学建設当時の客土がみられ、安定した地山等、武田城下町遺跡に伴う遺構などは検出されなかった。

6－18　富士北麓総合学科建設事業に伴う仮設校舎建設立会調査

所 在 地　富士吉田市新西原１丁目23－1
　　（北富士工業高等学校グラウンド）
調査期間　2003年５月29日
調査面積　52.0㎡（調査対象面積 1,300㎡）
担 当 者　坂本 美夫・高野 玄明・正木 季洋



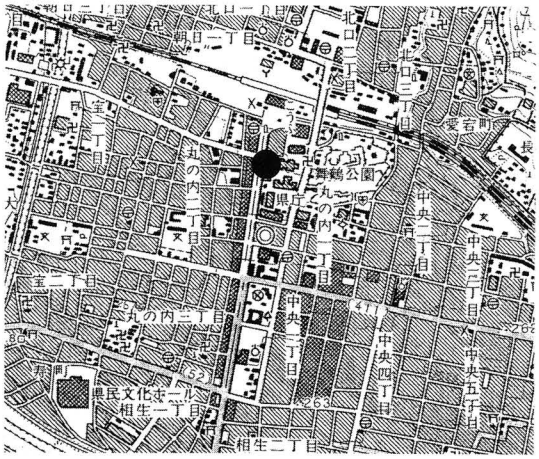
立会調査　位置図

事業予定地内に幅1.2m、長さ3.6mのトレンチを12本設定し、重機により仮設プレハブ基礎床面とされる深さ0.7m前後まで掘り下げを行った。

この結果、富士山噴火に伴うと思われる黒色火山灰が1.0m以上堆積している状況が窺えるなど、遺構・遺物の確認は出来なかった。

６－１９　県庁構内地下埋設工事に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内１－６－１（県庁構内）
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2003年８月21～22日、９月18日（夜間）
調査面積　20㎡
担 当 者　保坂 康夫



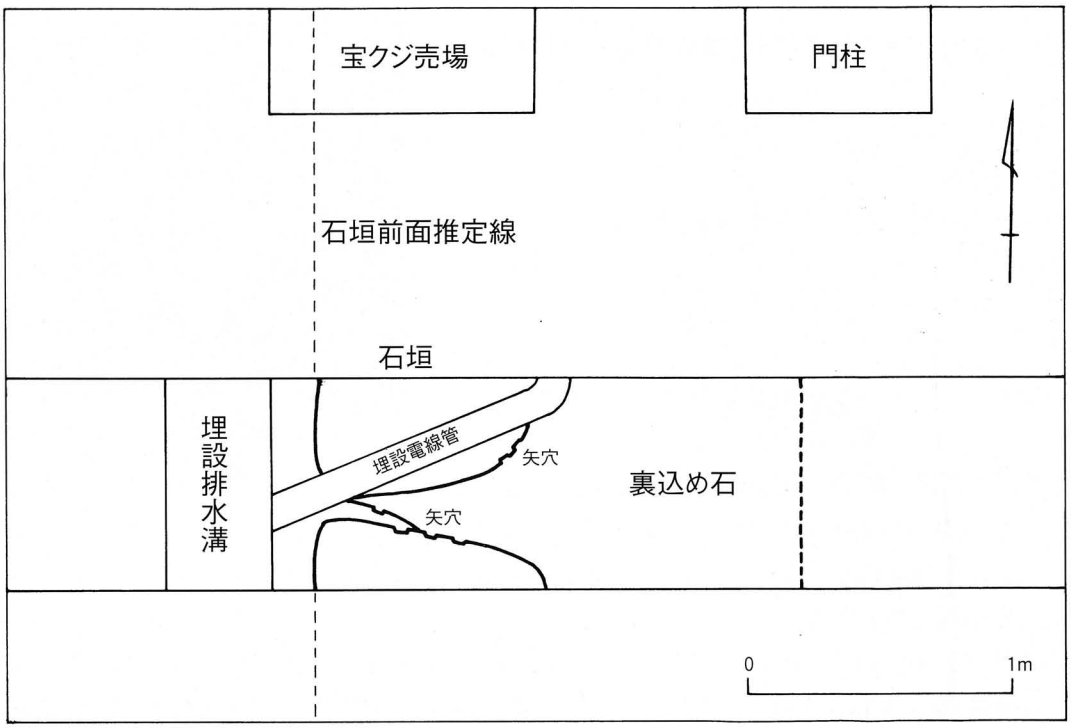
立会調査　位置図

県庁西門の光ファイバー情報管埋設工事に伴い、夜間立会調査を実施した。

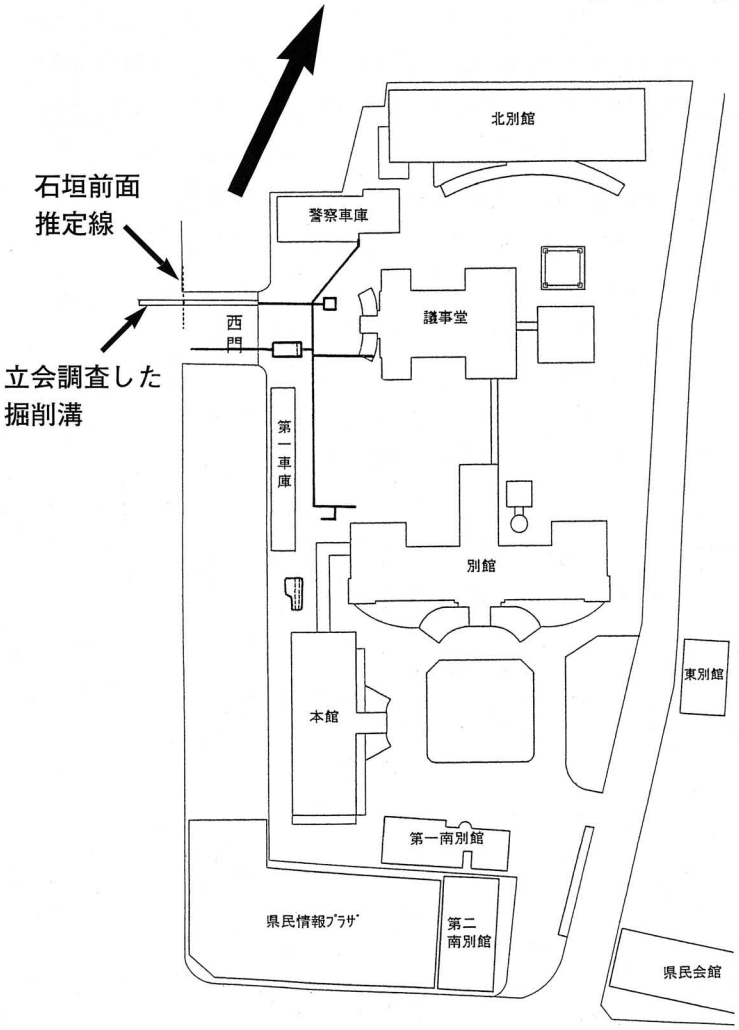
８月21・22日の作業は、幅１m、深さ１mの溝を長さ20mに渡って重機で掘削し情報管を埋設するもので、地表下30㎝は舗装コンクリート、その下位は砂などの客土層であったが、中央部２mほどの範囲に径５㎝程度の礫を含む褐色粘土層が舗装コンクリート直下にあり、撹乱を受けていない一次的な土層と思われる。

９月18日の作業は、平和通り側10mの工事深度を変更し地表下２mまでを掘削するもので、工事区域中央部で堀側の石垣を確認した。奥行き１mほどの検地石で、裏グリ層を伴っていた。礫の側面には矢穴が見られ、幅５～６㎝、奥行き６㎝ほどの大きさである。間地石であることや、矢穴の大きさから、幕末頃の比較的新しい時期の改修石垣である可能性が考えられる。

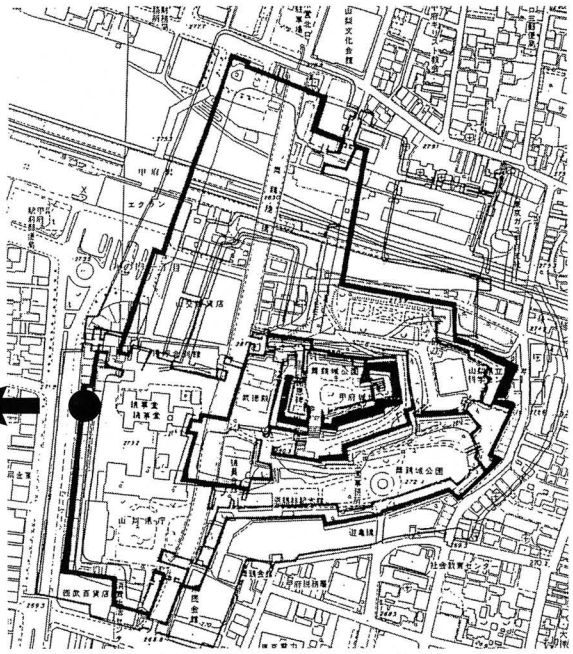
絵図等によると、今回調査部分は、楽屋曲輪西側の土塁と堀側を固める石垣に当たる。土塁の城内側裾部の溝を平成13・14年度に確認しており、土塁はばぼ裾部まで掘削されているものと思われる。石垣は本来、土塁の頂部まで構築されていたと思われるが、土塁除去時の掘削で、ほぼ土塁裾部のレベルまで除去されている。今回確認した石垣は除去された石垣の中腹部分と思われ、さらに堀の底部に向かって下半部分の石垣が埋め立てられて残存しているものと推定される。



石垣出土地点概略図



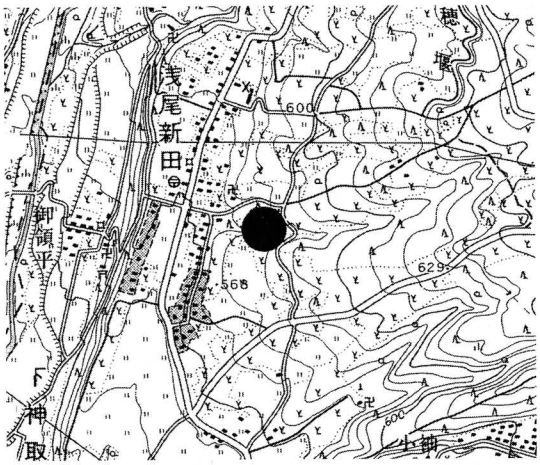
県庁構内図と調査位置



甲府城と調査地点（黒丸印）

６－２０　大林寺川火山砂防事業に伴う立会調査

所 在 地　北巨摩郡明野村浅尾新田地内
調査期間　2003年９月18日
担 当 者　坂本 美夫

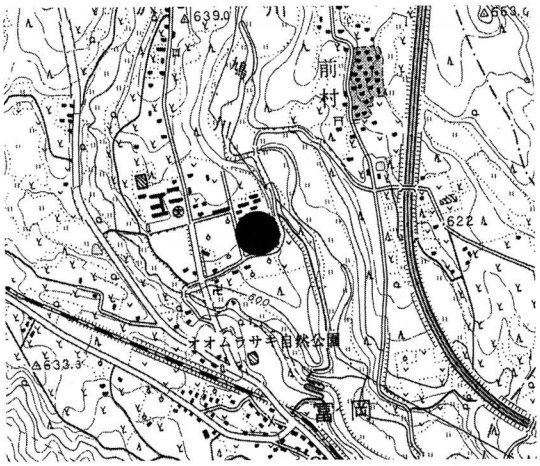


立会調査　位置図

砂防堰堤計画予定地はＡ地点・Ｂ地点の２カ所があり、Ａ・Ｂ地点及び周辺地域について、掘削及び地表観察によって埋蔵文化財包蔵の有無の確認を行った。調査の結果、Ａ地点においては、斜面から落下して堆積した黒褐色の表土の下30cmで茅ヶ岳火砕流堆積物が堆積する。周辺地では、整地された地表一面に赤褐色の茅ヶ岳火砕流堆積物が確認された。Ｂ地点周辺の切り通しの観察においても、表土下は茅ヶ岳火砕流堆積物が堆積している。遺構・遺物は確認されなかった。

６－２１　北杜高校農場内建物解体工事に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）

所 在 地　北巨摩郡長坂町塚川地内　北杜高校農場内
調査期間　2003年９月18日
担 当 者　坂本 美夫

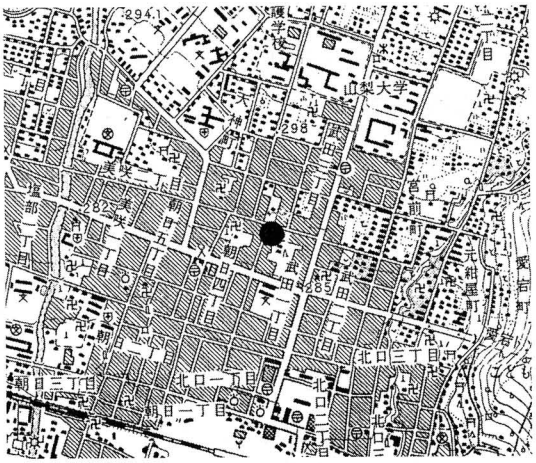


立会調査　位置図

解体建物の基礎に沿って12本のトレンチを設定し、重機で掘削後、人力による精査で埋蔵文化財の有無を確認した。調査区の西側は原町農業高校前遺跡の2001年度発掘調査区であり、縄文時代中期の集落跡が確認されている。調査の結果、表土下にローム層が堆積し、水道施設時の溝、攪乱による堀り込みが確認された以外、遺構・遺物は全く確認されなかった。

６－２２　裁判所長宿舎基礎撤去工事に伴う立会調査（武田城下町遺跡）

所 在 地　甲府市武田１丁目88－1
遺 跡 名　甲府城下町遺跡
調査期間　2003年11月28日
担 当 者　網倉 邦生



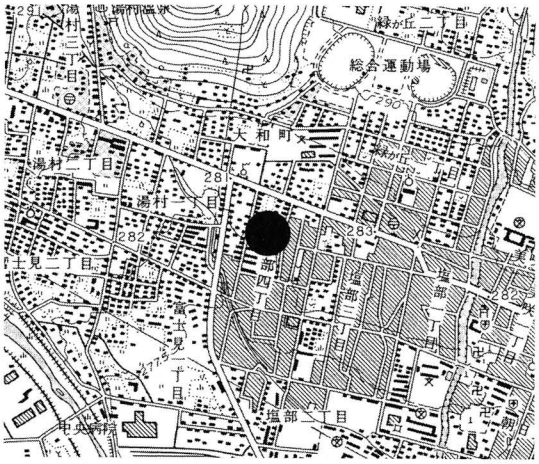
立会調査　位置図

裁判所長の宿舎の基礎撤去に伴う立会を行い、埋蔵文化財の有無について確認した。宿舎や宿舎前のコンクリート基礎は地表下10～20cmで撤去された。このため、掘削が遺物包含層に到達していないと判断し、立会を終了した。

６－２３　県営塩部第２団地改築事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市塩部４丁目11　県営塩部第２団地地内
調査期間　2003年12月17日、2004年１月６日～９日
担 当 者　坂本 美夫

建設予定地の掘削に沿って埋蔵文化財包蔵の有無を確認した。調査の結果、盛土の下からは泥炭層ないしシルトの互層が厚く堆積していた。地表部のごく浅い部分と、旧建物解体後の整地に伴う客土、埋土による攪乱部を除き、ほとんど水平堆積をみせており、遺構などの堀り込まれた形跡はみられなかった。遺物についてもなんら確認することはできなかった。

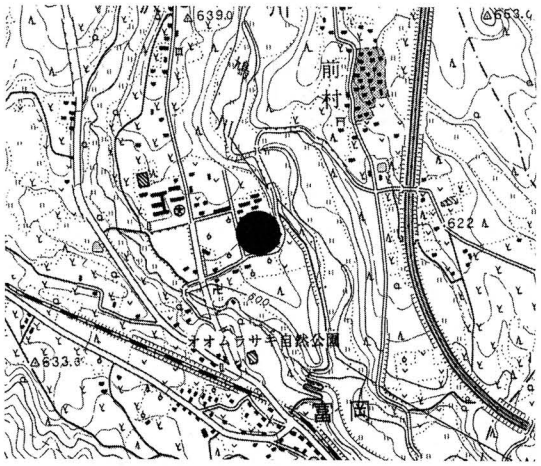


立会調査　位置図

６－２４　北杜高校農場内馬術練習場整備柵列設置に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）

所 在 地　北巨摩郡長坂町塚川地内（北杜高校農場内）
遺 跡 名　原町農業高校前遺跡
調査期間　2004年２月６日
担 当 者　高野 玄明・正木 季洋

馬術場柵列建設のため、直径20cmのオーガーによる掘削の立会調査を行った。その結果、掘削上面からローム層が見られるなど、立会調査を行った３箇所から、遺物などの出土は認められなかった。

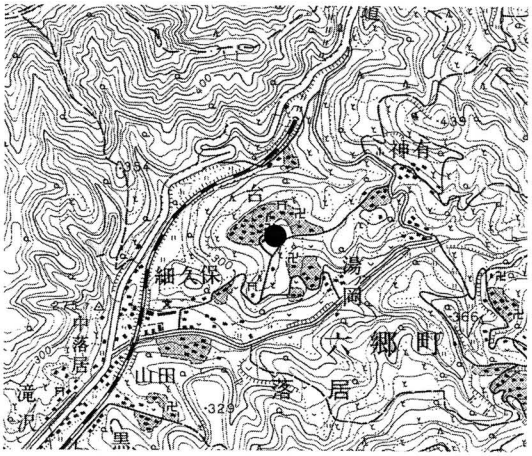


立会調査　位置図

６－２５　六郷町落居地区地滑り対策事業に伴う試掘立会調査

所 在 地　西八代郡六郷町落居日蓮宗妙蓮寺墓地南端
作業期間　2004年２月24日
調査面積　36m²
担 当 者　八巻 與志夫

対象地は、日蓮宗妙蓮寺墓地南端にあたる。工事は方６mの範囲に地下水を抜くための直径５mの井戸を掘削するものである。掘削される井戸の施工範囲及び立木の移植場所の２箇所について、掘削時に立ち会ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



立会調査　位置図

第３章　県内の概況

１．発掘調査

2003年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて173件となっている。その内訳は、県が13件・市町村が160件である。発掘調査の原因は、道路17件、河川２件、学校１件、集合住宅16件、個人住宅61件、店舗８件、個人住宅兼工場又は店舗３件、その他建物19件、宅地造成12件、土地区画整理１件、公園造成２件、観光開発１件、ガス・電気・電話・水道３件、農業関連13件、土砂採取１件、その他開発９件といった緊急調査と、３件の学術調査や１件の保存目的の範囲確認調査があった。

２．県指定文化財

平成15年５月１日に新たに県指定文化財（有形文化財）の考古資料として八代町の「岡遺跡出土、容器形土偶２点」を指定した。容器形土偶については、嬰児や小児の埋葬用の容器との見方があげられており、県内では他に、韮崎市坂井遺跡からも１点出土した例などもあるが、一対での発見は今のところ例を見ないものである。この容器形土偶は、その豊かな表情に土偶に託した当時の人々の精神的な面が垣間見られ、本県における縄文時代末から弥生時代にかけての変動の時期の墓制の在り方を知る上で重要な資料である。

この他、絵画として都留市長生寺の「紙本金地著色龍虎梅竹図六曲屏風、絹本著色釈迦三尊十六善神像、絹本著色小山田出羽守信有（契山存心）像」、石和町大蔵経寺の「絹本著色両頭愛染明王像、絹本著色不動明王二童子像（座像系）絹本著色不動明王二童子像（立像系）、絹本著色騎獅不動明王八大童子像」を県指定した。

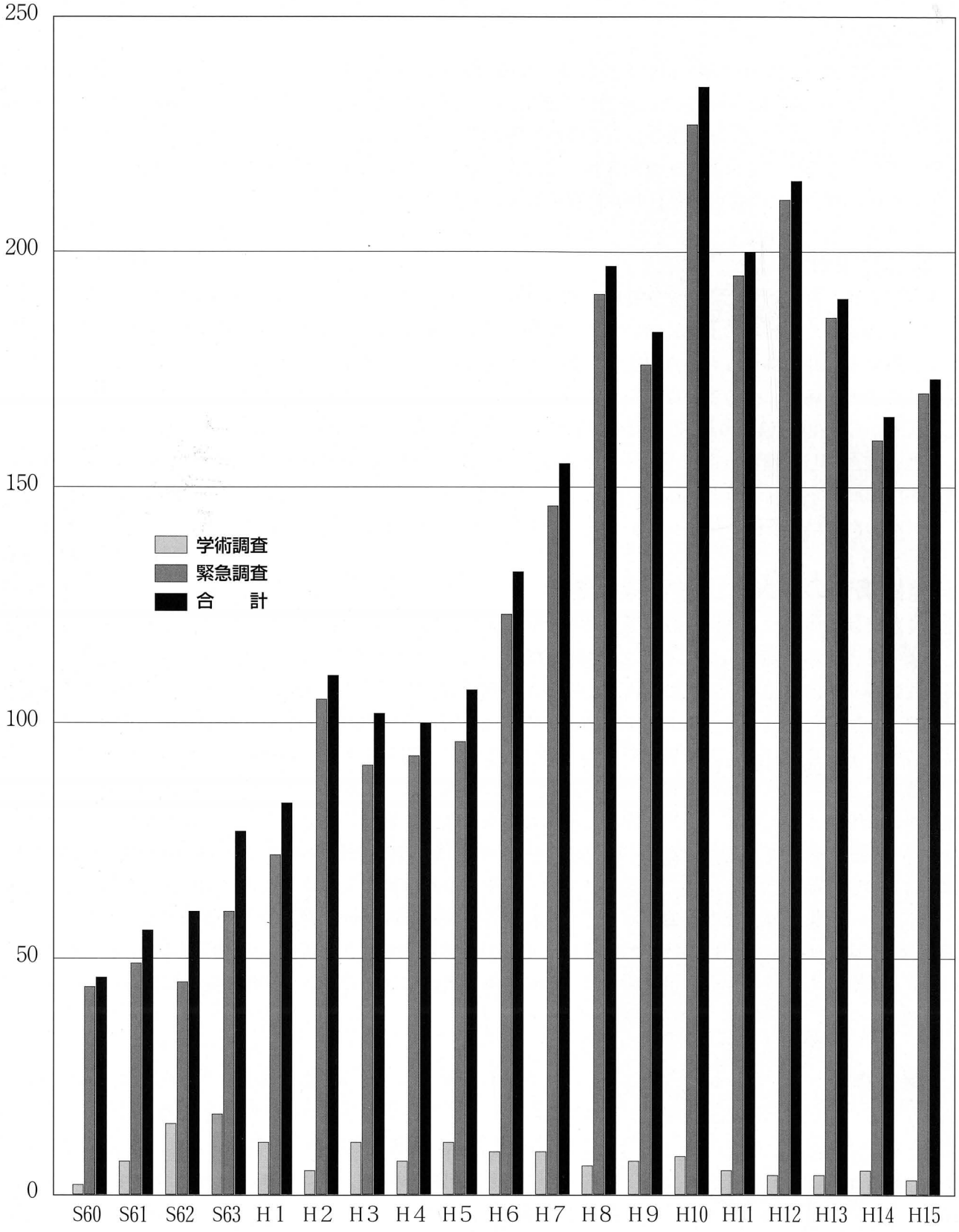
３．発掘調査の成果と保存整備事業

縄文時代では、明野村における諏訪原遺跡の土偶装飾付土器や梅之木遺跡の中期後半の環状集落など相次ぐ発見により、茅ヶ岳西麓に展開する縄文遺跡群の在り方が注目を集めている。また、境川村京原遺跡からは、前期の住居跡から国内でも最古級の編み物の圧痕が発見され、年代が明かなものとして極めて貴重な資料となっている。古墳時代では、南アルプス市中畑遺跡の直径約24ｍの円形の周溝をもつ低墳丘系墳墓の発見や八代町竜塚古墳が調査により一辺56ｍ規模の大型方墳であることが明らかとなり、甲府盆地における古墳時代中期の首長層の変遷を解明する重要な資料が得られた。平安時代では、明野村での永井原Ｖ遺跡の区画溝や梅之木遺跡の馬の骨や焼きごてなど「小笠原牧」との関わりを示唆する資料の発見により、具体的な牧の姿が明らかになりつつある。玉穂町上窪遺跡では、平安時代末の水田面から地震痕跡（噴砂）や室町時代の溝跡から漆椀、曲物、箸等の木製品が良好な状態で発見されており、甲府盆地南部の低湿地の遺跡様相を探る貴重な資料となっている。中・近世では、保存整備に伴って大泉村の谷戸城や韮崎市の新府城等で発掘調査が行われ、新府城の搦手周辺の調査により空堀に架けられた橋を支える橋台跡が発見され、新たに武田氏の造成技術を解明する手がかりが得られた。県指定史跡甲府城では、整備事業が最終年度を迎え、稲荷櫓の復元に向けての事業が進められた。

４．調査体制

埋蔵文化財専門職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）について、県では学術文化財課５名（うち博物館建設室１名）、埋蔵文化財センター26名（うち非常勤嘱託５名）、考古博物館２名（外に非常勤嘱託１名）、市町村では、甲府市６名（外に非常勤嘱託１名）、富士吉田市２名、大月市２名、韮崎市２名、南アルプス市３名、一宮町２名、八代町２名、大泉村２名、都留市、塩山市、山梨市、春日居町、牧丘町、勝沼町、石和町（外に臨時１名）、御坂町、境川村、中道町、豊富村、増穂町、竜王町、敷島町（外に非常勤嘱託１名）、玉穂町（昭和町と田富町を兼務）、双葉町、明野村（外に文化財調査員１名）、須玉町（外に非常勤嘱託１名）、高根町、長坂町（外に臨時１名）、小淵沢町、白州町、武川村（外に臨時１名）、上野原町に各１名となっており、56市町村のうち34市町村に埋蔵文化財担当者が配置されている。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移



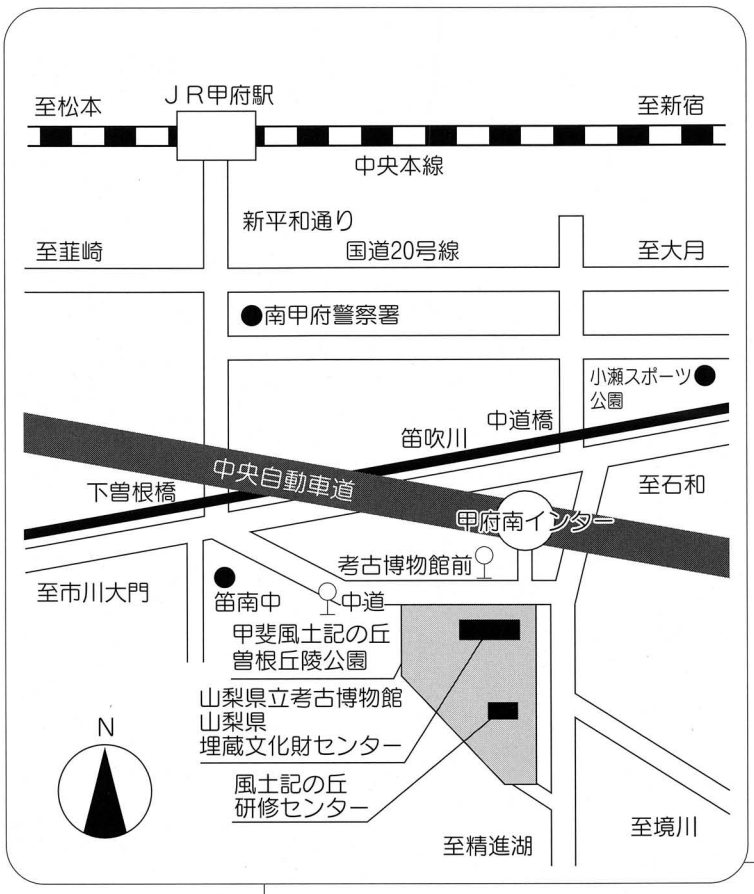
年　度	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
学術調査	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3
緊急調査	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170
合　計	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173

2003年度　県内発掘調査一覧表

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
1	根岸遺跡	東八代郡八代町南3191	60.00	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	集合住宅	八代町教育委員会	H15.3.19 ～ H15.3.28
2	五本松遺跡	甲府市国玉町452－1,－3	50.00	散布地	不明	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.3.25 ～ H15.3.28
3	上石田遺跡	甲府市上石田三丁目1671の一部	8.00	集落跡	縄文	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.3.18 ～ H15.3.18
4	大林遺跡	高根町箕輪字大林2573－1	2501.00	散布地	縄文・平安	土砂採取	高根町教育委員会	H15.3.19 ～ H15.3.31
5	上小用遺跡	白州町鳥原2,760	1500.00	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	農業基盤整備事業	白州町教育委員会	H15.4.1 ～ H15.9.30
6	武田城下町遺跡	甲府市天神町337.338	880.91	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.4.7 ～ H15.4.11
7	武田城下町遺跡	甲府市屋形三丁目1731－3	151.68	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.4.4 ～ H15.4.9
8	上原遺跡	武川村宮脇字上の原2029外	1000.00	散布地	縄文・平安・中世・近世	農業関係事業	武川村教育委員会	H14.4.1 ～ H15.3.31
9	大持原B遺跡	武川村新奥大持2208外	300.00	散布地	平安・中世	その他建物	武川村教育委員会	H14.11.20 ～ H15.3.31
10	向原遺跡	武川村黒沢字向原1762－2	1000.00	集落跡	縄文・弥生・中世	農業関係事業	武川村教育委員会	H14.4.1 ～ H16.3.31
11	向原遺跡	武川村黒沢字向原1762－3	500.00	集落跡	縄文・弥生・中世	その他開発	武川村教育委員会	H14.4.1 ～ H15.3.31
12	真A遺跡	武川村山高真3567－3外	500.00	集落跡	縄文	農業関係事業	武川村教育委員会	H14.8 ～ H15.3.28
13	塩部遺跡	甲府市1－140－10	4.00	その他の遺跡(包蔵地)	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.4.11 ～ H15.4.11
14	里吉天神遺跡	甲府市里吉三丁目771－1外	606.26	散布地	古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.4.14 ～ H15.4.18
15	亀田遺跡	甲府市川田町143	130.00	集落跡	古墳	その他開発(駐車場)	甲府市教育委員会	H15.4.7 ～ H15.4.9
16	御岳田遺跡	敷島町大下条935－1外	280.00	集落跡	古墳・平安・中世	宅地造成	敷島町教育委員会	H15.3.10 ～ H15.4.17
17	大庭遺跡	八代町北2722－2	120.00	散布地	古墳・平安・中世	店舗	八代町教育委員会	H15.4.10 ～ H15.4.25
18	武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺町字御所堰下845	6.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.4.21 ～ H15.4.21
19	武田城下町遺跡	甲府市天神町236.237	499.40	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.4.18 ～ H15.4.25
20	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘一丁目20－2外	281.12	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.4.22 ～ H15.4.22
21	寺所第2遺跡第7地点	大泉村西井出2877－1	750.23	集落跡	縄文・平安	個人住宅	大泉村教育委員会	H15.4.11 ～ H15.5.4
22	腰巻遺跡	須玉町藤田732－1外	40.00	集落跡	縄文・平安・中世・近世	その他建物(病院)	須玉町教育委員会	H15.1.27 ～ H15.1.29
23	御所村北遺跡	須玉町若神子字下片瀬2,688－1外	123.75	散布地	縄文・平安・中世	その他建物	須玉町教育委員会	H15.4.21 ～ H15.4.23
24	上町田遺跡	春日居町鎮目1186－1	20.00	散布地	弥生・古墳・平安	道路	山梨県教育委員会	H15.5.8 ～ H15.5.9
25	末法遺跡	敷島町大下条414－1.415－1	580.00	集落跡	古墳	宅地造成	敷島町教育委員会	H15.3.31 ～ H15.5.9
26	松の尾遺跡	敷島町中下条1510－1外	589.00	集落跡	古墳・中世	宅地造成	敷島町教育委員会	H15.5.9 ～ H15.7.4
27	甲府城下町遺跡	甲府市武田1－88－1	334.50	城下町	近世	その他建物(官舎改築)	山梨県教育委員会	H15.5.14 ～ H15.5.14
28	史跡武田氏館跡	甲府市大手3－3748－12	214.07	城館跡	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.13 ～ H15.6.13
29	腰巻遺跡	須玉町藤田732－1	900.00	散布地・集落跡	縄文・弥生。古墳・平安・中世・近世	その他建物(病院)	須玉町教育委員会	H15.5.7 ～ H15.5.30
30	地蔵北遺跡	甲府市東光寺3－1690外	2141.00	散布地	古墳・奈良・平安・中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H15.5.13 ～ H15.5.25
31	銀杏の木遺跡	甲府市東光寺2－280－14	331.75	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.13 ～ H15.5.13
32	武田城下町遺跡	甲府市屋形2－2447－1	421.83	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.22 ～ H15.5.22
33	武田城下町遺跡	甲府市宮前町21,22	881.93	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.22 ～ H15.5.26
34	緑が丘二丁目遺跡	甲府市和田町字水口707－3	199.21	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.21 ～ H15.5.26
35	足原田遺跡	山梨市万力950	3800.00	散布地	古墳・平安・中世	道路	山梨県教育委員会	H15.5.22 ～ H15.10.31
36	上窪遺跡	玉穂町下河東1030－3外	3030.00	田畑跡	奈良・平安・中世・近世	道路・河川	玉穂町教育委員会	H15.5.19 ～ H15.10.31
37	武田城下町遺跡	甲府市屋形3－1730－3外	429.97	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.23 ～ H15.5.27
38	御崎前遺跡	須玉町若神子614－1外	2200.00	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅兼工場又は店舗	須玉町教育委員会	H15.5.13 ～ H15.5.30
39	大北耕地遺跡	甲府市大里町字大北耕地1393－11外	293.05	散布地	中世・近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.5.30 ～ H15.5.30
40	史跡武田氏館跡	甲府市大手3－3748－13外	271.07	城館跡	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.6.6 ～ H15.6.30
41	武田城下町遺跡	甲府市宮前町7－32	2.00	城下町	中世	その他建物(研究施設)	山梨県教育委員会	H15.5.20 ～ H15.5.20
42	武田城下町遺跡	甲府市天神町16－2	310.58	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.6.9 ～ H15.6.13
43	武田城下町遺跡	甲府市宮前町205－3	339.14	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.6.10 ～ H15.6.13
44	本郷B遺跡	甲府市善光寺3－1946－1外	1545.00	散布地	平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H15.6.3 ～ H15.6.13
45	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田495－1	454.41	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.6.10 ～ H15.6.10
46	鞍掛遺跡	一宮町末木804	1753.00	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	その他開発(プール建設)	一宮町教育委員会	H15.6.10 ～ H15.9.30
47	井坪・炭焼・滝沢遺跡	河口湖町字井坪520－2外	5500.00	集落跡・田畑跡	平安	道路	山梨県教育委員会	H15.6.9 ～ H15.11.30
48	妙円寺前遺跡	須玉町若神子字妙円寺前728－1外	300.00	散布地	縄文・平安・中世・近世	集合住宅	須玉町教育委員会	H15.6.5 ～ H15.6.30
49	釜無川堤防址群	南アルプス市上高砂711	273.05	その他の遺跡(堤防址)	中世・近世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.6.17 ～ H15.6.17
50	往還東C遺跡	南アルプス市小笠原字往還東1373－2外	1202.00	散布地	中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H15.6.23 ～ H15.6.23
51	武田城下町遺跡	甲府市大手2－4073－1	366.25	城下町	中世	その他建物(施設)	甲府市教育委員会	H15.6.23 ～ H15.6.23
52	武田城下町遺跡	甲府市武田3－466	327.59	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.6.27 ～ H15.7.2
53	甲府城下町遺跡	甲府市武田2－82－3外	34.00	城下町	近世	その他建物(バレー教育)	甲府市教育委員会	H15.5.13 ～ H15.5.20
54	天神西遺跡	甲府市千塚4－3380－8	191.99	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.7 ～ H15.7.18
55	京原・立石北遺跡	境川村小黒坂28－1外	700.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・中世	道路	境川村教育委員会	H15.7.10 ～ H15.7.25.

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
56	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目87－3	244.77	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.1 ～ H15.7.11
57	緑が丘二丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目821－2外	370.47	散布地	古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.6.24 ～ H15.6.27
58	寺所第2遺跡第8地点	大泉村西井出2888－1	517.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	大泉村教育委員会	H15.6.9 ～ H15.7.11
59	史跡景徳院	大和村田野389	68.52	社寺跡	近世	その他建物(参道整備)	大和村教育委員会	H15.7.24 ～ H15.8.25
60	鰍沢河岸跡	鰍沢町1421外	3265.00	その他の遺跡(河岸跡)	近世	河川	山梨県教育委員会	H15.7.28 ～ H16.1.30
61	高部宇山平遺跡	豊富村高部1536	14.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	個人住宅	豊富村教育委員会	H15.7.17 ～ H15.7.18
62	駒平遺跡	豊富村木原25－1	4.50	集落跡	縄文・古墳・近世	個人住宅	豊富村教育委員会	H15.7.22 ～ H15.7.22
63	大師東丹保遺跡	南アルプス市大師178－1外	2984.00	集落跡	弥生・中世	その他建物	南アルプス市教育委員会	H15.7.16 ～ H15.7.18
64	音羽遺跡	甲府市音羽町389－2	259.59	集落跡	弥生・古墳・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.4 ～ H15.7.25.
65	東梨木戸1遺跡	大月市七保町下和田1133－1	8.00	集落跡	縄文	道路	大月市教育委員会	H15.7.22 ～ H15.7.22
66	若宮第1遺跡	玉穂町若宮37－9	330.58	散布地	中世・近世	個人住宅	玉穂町教育委員会	H15.7.5 ～ H15.11.15
67	武田城下町遺跡	甲府市大手3－3758－2	141.36	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.24 ～ H15.8.1
68	甲府城跡	甲府市丸の内1－79	437.70	城館跡	中世・近世	その他開発(駐車場)	山梨県教育委員会	H15.8.11 ～ H15.8.12
69	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美3226－1外	17.60	散布地	古墳	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H15.8.5 ～ H15.8.5
70	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永1855外	20.70	集落跡	奈良・平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H15.7.31 ～ H15.8.1
71	野牛島・西の神遺跡	南アルプス市野牛島西の神2622外	5.20	散布地	奈良・平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.8.7 ～ H15.8.7
72	石橋条里制遺構	境川村大坪103	700.00	その他の遺跡(条里制)	平安・中世	その他建物(病院)	境川村教育委員会	H15.8.11 ～ H15.8.19
73	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田字中村前1192	6.80	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.8.12 ～ H15.8.12
74	油田遺跡	甲府市蓬沢1－122	4.50	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.31 ～ H15.7.31
75	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内1－265	4.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.7.29 ～ H15.7.29
76	武田城下町遺跡	甲府市屋形3－2497外	403.92	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.8.8 ～ H15.8.19
77	榎田遺跡	甲府市千塚5－3448－4	129.70	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.8.7 ～ H15.8.19
78	前畑遺跡	南アルプス市山寺80－1外	3.20	散布地	中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.8.22 ～ H15.8.22
79	長谷寺遺跡	南アルプス市榎原453－5	385.00	散布地	奈良・平安	その他建物(作業場)	南アルプス市教育委員会	H15.8.18 ～ H15.8.19
80	横畑遺跡	豊富村大鳥居3560－4	12.00	集落跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	個人住宅	豊富村教育委員会	H15.8.20 ～ H15.8.20
81	大坪遺跡	甲府市横根町454外	44.00	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.9.2 ～ H15.9.5
82	甲府城下町遺跡	甲府市武田1－3－139外	10.50	城下町	近世	その他開発	甲府市教育委員会	H15.8.27 ～ H15.8.27
83	天神北遺跡	甲府市千塚5－3424－2	8.00	散布地	古墳・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.8.4 ～ H15.8.4
84	後畑遺跡	御坂町夏目原1118	672.00	散布地	古墳・奈良・平安	店舗	御坂町教育委員会	H15.9.4 ～ H15.9.10
85	芦原田遺跡	塩山市西広門田212外	2442.47	散布地	古墳	集合住宅	塩山市教育委員会	H15.9.11 ～ H15.9.30
86	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永1855外	192.00	散布地	奈良・平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H15.9.3 ～ H15.9.30
87	西大久保遺跡	須玉町小倉字西大久保	10000.00	散布地	縄文・平安・中世	農業基盤整備事業	須玉町教育委員会	H15.9.9 ～ H16.3.31
88	向山遺跡	須玉町小倉字向山	5000.00	その他墓	中世・近世	農業基盤整備事業	須玉町教育委員会	H15.9.2 ～ H16.3.31
89	甲府城下町遺跡	甲府市北口2－50	650.00	城下町	近世	道路	甲府市教育委員会	H15.4.28 ～ H15.6.30
90	大坪遺跡	甲府市桜井町586－1	1281.00	生産遺跡・集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.9.30 ～ H15.9.30
91	小井川遺跡	田富町布施地内	2000.00	その他の遺跡	中世・近世	道路	山梨県教育委員会	H15.10.1 ～ H15.12.30
92	松の尾遺跡	敷島町大下条41－1外	374.00	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	店舗	敷島町教育委員会	H15.9.30 ～ H15.10.31
93	上平遺跡	増穂町春米644	765.28	散布地	縄文・古墳	個人住宅	増穂町教育委員会	H15.9.10 ～ H15.9.10
94	地耕免遺跡	御坂町成田字地耕面1749外	1823.00	散布地	古墳・奈良・平安	個人住宅兼工場又は店舗	御坂町教育委員会	H15.10.16 ～ H15.10.17
95	金田遺跡	一宮町金田・竹原田地内	409.00	集落跡	縄文・弥生・古墳	農業基盤整備事業	一宮町教育委員会	H15.10.15 ～ H15.12.19
96	前御勅使川堤防址群	南アルプス市野牛島1882－57外	6.00	その他の遺跡(堤防址)	中世・近世	店舗	南アルプス市教育委員会	H15.10.20 ～ H15.10.20
97	御崎北4号墳	南アルプス市下宮地359外	30.00	古墳	古墳	その他建物(駐車場)	南アルプス市教育委員会	H15.10.15 ～ H15.10.17
98	小篠遺跡	大月市猿橋町小篠地内	24.00	集落跡	縄文	農業基盤整備事業	大月市教育委員会	H15.10.6 ～ H15.10.14
99	甲府城下町遺跡	甲府市北口2－32,32－2	8.00	城館跡	近世	店舗	甲府市教育委員会	H15.10.20 ～ H15.10.21
100	水呑場遺跡	三珠町大塚地内	960.00	集落跡	縄文	道路	三珠町教育委員会	H15.8.25 ～ H15.9.2
101	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘1－147－4	218.90	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.10.28 ～ H15.11.7
102	室屋遺跡	境川村藤垈2494	10.00	散布地	縄文・平安	農業基盤整備事業	境川村教育委員会	H15.10.27 ～ H15.10.29
103	町田遺跡	塩山市下於曽1395－1外	955.00	散布地	縄文	集合住宅	塩山市教育委員会	H15.10.24 ～ H15.11.7
104	上中丸遺跡	富士吉田市小明見1342－1	36.00	散布地	縄文	ガス・電気・電話・水道	富士吉田市教育委員会	H15.10.23 ～ H15.10.24
105	塩部遺跡	甲府市塩部2－4地内	1400.00	その他の遺跡(包蔵地)	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	道路	甲府市教育委員会	H15.6.3 ～ H15.10.17
106	甲府城下町遺跡	甲府市北口2－94	144.23	城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H15.10.27 ～ H15.10.31
107	幸町A遺跡	甲府市幸町2800	392.79	散布地	弥生	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.10.24 ～ H15.10.27
108	芹ヶ井戸遺跡	大月市富浜町鳥沢字芹ヶ井戸4516－3	4.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H15.10.29 ～ H15.10.29
109	堰添遺跡	甲府市宮原町1178外	1800.00	散布地	平安・中世	道路	甲府市教育委員会	H15.10.31 ～ H15.11.12
110	上町天神遺跡	甲府市上町1432－1外	1045.00	散布地	古墳・奈良・平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.11.7 ～ H15.11.7
111	村前遺跡	甲府市堀之内町957－1外	1759.81	散布地	平安・中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.11.12 ～ H15.11.14
112	竜塚古墳	八代町米倉2086－51外	215.00	古墳	古墳	保存目的の範囲確認	八代町教育委員会	H15.10.9 ～ H15.12.26
113	武田城下町遺跡	甲府市大手三丁目3655－3	253.85	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.11.13 ～ H15.11.20
114	武田城下町遺跡	甲府市古府中町1059－1外	232.32	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.11.17 ～ H15.11.17

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
115	徳永・御崎遺跡	南アルプス市徳永1672－1	12.00	散布地	縄文	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H15.12.9 ～ H15.12.12
116	屋敷添遺跡	昭和町飯喰字屋敷添838外	218.00	散布地	近世	個人住宅	昭和町教育委員会	H15.10.22 ～ H15.10.31
117	八幡東遺跡	甲府市湯村三丁目1681－4	330.65	散布地	縄文・古墳・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.11.26 ～ H15.11.26
118	前田遺跡	甲府市池田二丁目283－2	992.32	散布地	平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.11.25 ～ H15.11.28
119	上窪遺跡	玉穂町下河東1019外	3493.00	田畑跡	奈良・平安・中世・近世	土地区画整理	玉穂町教育委員会	H15.12.3 ～ H16.3.31
120	青柳河岸跡	増穂町青柳地先	160000.00	その他の遺跡(河岸跡)	中世・近世	河川	山梨県教育委員会	H15.11.25 ～ H15.12.17
121	大林遺跡	昭和町河西大林474－6	878.33	散布地	平安・中世・近世	個人住宅	昭和町教育委員会	H15.11.26 ～ H15.11.26
122	斜遺跡	高根町下黒沢字斜378－1	8000.00	散布地	縄文	その他建物(火葬場)	高根町教育委員会	H15.12.10 ～ H16.1.10
123	甲府城下町遺跡	甲府市北口三丁目30	258.27	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.12.3 ～ H15.12.3
124	武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺町字御所堰下775－1外	265.89	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.12.16 ～ H15.12.19
125	桜井畑遺跡	甲府市川田町496－6	441.56	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.12.15 ～ H15.12.15
126	堤防遺跡群	南アルプス市百々1728－11	1965.00	その他の遺跡(堤防址)	中世	観光開発	南アルプス市教育委員会	H15.12.5 ～ H15.12.5
127	武田城下町遺跡	甲府市屋形3－1738－1	467.04	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.12.18 ～ H15.12.25
128	甲府城下町遺跡	甲府市北口1－162	97.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.12.19 ～ H15.12.19
129	根の神遺跡	大月市大月町真木字林3942－1	6.00	散布地	縄文	個人住宅	大月市教育委員会	H15.12.8 ～ H15.12.8
130	寺部村附第6遺跡	南アルプス市寺部1868外	630.00	散布地	古墳・なら・平安・中世	道路	南アルプス市教育委員会	H15.12.10 ～ H15.12.15
131	国府関連遺跡	春日居町寺本49－1	40.00	集落跡	奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	H15.11.19 ～ H15.12.12
132	国府関連遺跡	春日居町国府171	40.00	集落跡・官衙跡	古墳・奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	H15.12.1 ～ H15.12.27
133	神ノ木遺跡	八代町増利141外	90.00	散布地	弥生・古墳・奈良・平安	公園造成	八代町教育委員会	H15.9.18 ～ H15.9.26
134	武田城下町遺跡	甲府市大手1－4441－2	972.65	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.12.18 ～ H15.12.26
135	永井原・遺跡	明野村上手字永井原12069外	3500.00	その他の遺跡(古代牧跡)	平安	農業基盤整備事業	明野村教育委員会	H15.7.17 ～ H16.1.30
136	平林遺跡	明野村上手8431	4641.00	集落跡	縄文・平安	集合住宅	明野村教育委員会	H15.7.7 ～ H16.2.27
137	平林遺跡	明野村上手字桑森地内	1171.00	集落跡	縄文	道路	明野村教育委員会	H16.1.13 ～ H16.1.30
138	梅の木遺跡	明野村浅尾字梅之木地内	18000.00	集落跡	縄文・平安	農業基盤整備事業	明野村教育委員会	H15.4.9 ～ H15.12.3
139	加賀美条里遺構	南アルプス市藤田601外	1024.00	条里遺構	古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16.1.20 ～ H16.1.20
140	流間遺跡	南アルプス市十日市場634－3	4.00	散布地	平安・中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16.1.22 ～ H16.1.22
141	武田城下町遺跡	甲府市大手1－4379	303.38	城下町	平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.1.27 ～ H16.1.27
142	中尾条里遺跡	一宮町一ノ宮字川久保281－1外	2595.39	条里遺跡	奈良・平安	集合住宅	一宮町教育委員会	H16.1.29 ～ H16.2.29
143	前御勅使川堤防址群	南アルプス市六科字藤木624－3	49.00	堤防	中世・近世	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H16.1.26 ～ H16.1.26
144	荻野遺跡	上野原町大野字下の原5422外	8.00	散布地	縄文・平安	水道	上野原町教育委員会	H15.12.8 ～ H15.12.8
145	高砂遺跡	須玉町大蔵字高砂753－1外	155.25	集落跡	平安	その他建物	須玉町教育委員会	H15.10.27 ～ H16.1.30
146	前田遺跡	豊富村大鳥居1025外	141.00	散布地	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	農業基盤整備事業	豊富村教育委員会	H15.11.27 ～ H15.12.2
147	五本松遺跡	甲府市国玉町五本杉475－1外	201.50	散布地	その他	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.1.20 ～ H16.1.21
148	丹波山金山	丹波山村字泉水谷1445外	200.00	鉱山跡	中世	学術研究	丹波山村教育委員会	H15.8.29 ～ H15.9.19
149	身洗沢遺跡	八代町南4632－1外	142.50	散布地	弥生・古墳	その他建物(交流センター)	八代町教育委員会	H16.1.20 ～ H16.2.4
150	北林第2遺跡	南アルプス市十日市場1243－1外	9.45	散布地	平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H16.2.4 ～ H16.2.4
151	前御勅使川堤防址群	南アルプス市野牛島2339－8	35.00	堤防跡	中世・近世	店舗	南アルプス市教育委員会	H16.2.5 ～ H16.2.5
152	野牛島・西ノ神遺跡	南アルプス市野牛島2636	6.00	古墳	古墳	その他建物	南アルプス市教育委員会	H16.2.6 ～ H16.2.6
153	大野堤防遺跡	身延町大野967地先	30000.00	堤防	近世	その他開発(護岸工事)	山梨県教育委員会	H16.2.17 ～ H16.2.27
154	玉川遺跡	都留市玉川字上ノ原200－1外	4550.00	散布地	縄文・古墳	道路	山梨県教育委員会	H16.2.16 ～ H16.2.27
155	甲府城下町遺跡	甲府市朝日2－171－1外	242.38	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.2.13 ～ H16.2.13
156	米倉・向田遺跡	八代町米倉1091－1外	30.00	散布地	古墳・平安・中世	道路	八代町教育委員会	H16.2.9 ～ H16.2.13
157	粟原田遺跡	塩山市下於曽1607外	9993.00	散布地	縄文	店舗	塩山市教育委員会	H16.2.1 ～ H16.2.27
158	鈴の宮遺跡	塩山市上塩後544－1外	2342.00	散布地	縄文	その他建物	塩山市教育委員会	H16.2.10 ～ H16.2.27
159	赤池氏屋敷	下部町根子字中河原	0.00	城館跡	中世	その他開発	山梨県教育委員会	H16.2.13 ～ H16.2.13
160	大坪遺跡	甲府市桜井町字角田591－1外	3410.00	生産遺跡・集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	H16.2.16 ～ H16.2.16
161	武田城下町遺跡	甲府市屋形3－2467－5	231.86	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H16.2.24 ～ H16.2.24
162	寺部村附第10.11,角力場遺跡	南アルプス市十日市場・寺部地内	121000.00	散布地・集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	店舗	南アルプス市教育委員会	H16.2.12 ～ H16.3.16
163	御前山遺跡	南アルプス市湯沢字御前山2627－1	7200.00	散布地	縄文	道路	南アルプス市教育委員会	H16.2.23 ～ H16.3.19
164	野牛島・西の久保遺跡	南アルプス市野牛島西の久保2888外	3698.50	散布地	平安	その他開発	山梨県教育委員会	H16.3.8 ～ H16.3.12
165	扇田遺跡	御坂町井之上字扇田723－1	1081.00	散布地	古墳・奈良・平安	宅地造成	御坂町教育委員会	H16.3.2 ～ H16.3.5
166	大手下・甲府城下町	甲府市大手3－3789	293.56	城下町	縄文・中世	その他建物(賃貸住宅)	甲府市教育委員会	H16.3.2 ～ H16.3.2
167	徳永・御崎遺跡	南アルプス市徳永1664－2	10.00	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H16.3.9 ～ H16.3.9
168	宮東遺跡・清水遺跡	南アルプス市古市場150	51.00	散布地	弥生・古墳・中世	学校建設	南アルプス市教育委員会	H16.3.8 ～ H16.3.12
169	熊野原遺跡	豊富村浅利2531外	164.00	散布地	縄文・弥生・古墳	農業基盤整備事業	豊富村教育委員会	H16.2.16 ～ H16.2.21
170	原遺跡・東原遺跡	豊富村関原990－1外	174.00	散布地	縄文・中世	公園造成	豊富村教育委員会	H16.2.25 ～ H16.2.26
171	桂野遺跡	御坂町上黒駒2014－1外	2017.00	集落跡	縄文	その他開発(個人住宅及び寺院)	御坂町教育委員会	H16.3.12 ～ H16.3.26
172	石橋条里制遺構	境川村三椚586－4外	70.00	その他の遺跡(条里制)	平安	ガス・電気・電話・水道	境川村教育委員会	H16.3.22 ～ H16.3.26
173	寺部村附第6遺跡	南アルプス市寺部1868外	630.00	散布地	古墳・奈良・平安・中世	道路	南アルプス市教育委員会	H16.1.23 ～ H16.3.16



●路線バスご利用
甲府ー右左口（中道橋経由）考古博物館前で下車
●高速バスのご利用（２時間）甲府駅行・南回り
新宿西口……中道下車・徒歩５分

年　報　20

印刷日　平成 16 年 8 月 23 日
発行日　平成 16 年 8 月 31 日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所　株式会社　アド井上
山梨県中巨摩郡田富町流通団地３－４－５
TEL　055－273－6141